

第II章 性格特性・生活行動・リスク意識・金融保険リテラシー

ここでは、自分自身の普段の行動、性格や考え方について、および金融・保険に関する知識について、捉えている。

1. 自身の性格特性・生活行動

(1) 自身の性格特性

Q5 まず、あなたご自身の性格や考え方についてお尋ねします。次の(1)から(10)までの言葉は、あなたご自身にどのくらい当てはまりますか。文章全体を見て、自分にどれだけ当てはまるかを評価してください。「強くそう思う」を「7」、「全く違うと思う」を「1」として、1つ選んでください。

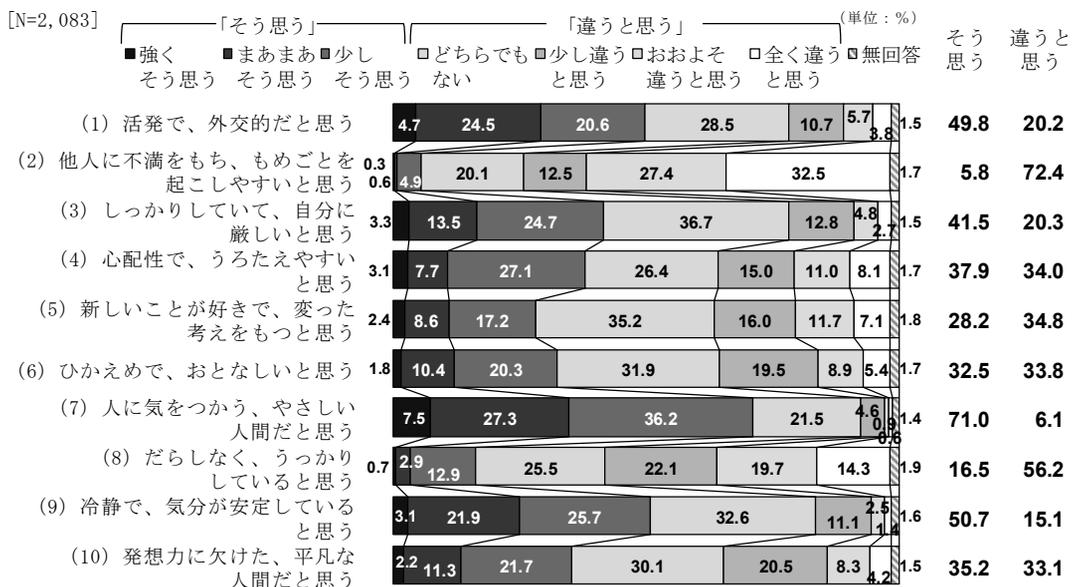
私は自分自身のことを…

(1) 活発で、外交的だと思う	1 全く違うと思う
(2) 他人に不満をもち、もめごとを起こしやすいと思う	2 おおよそ違うと思う
(3) しっかりしていて、自分に厳しいと思う	3 少し違うと思う
(4) 心配性で、うろたえやすいと思う	4 どちらでもない
(5) 新しいことが好きで、変った考えをもつと思う	5 少しそう思う
(6) ひかえめで、おとなしいと思う	6 まあまあそう思う
(7) 人に気をつかう、やさしい人間だと思う	7 強くそう思う
(8) だらしなく、うっかりしていると思う	
(9) 冷静で、気分が安定していると思う	
(10) 発想力に欠けた、平凡な人間だと思う	

自身の性格特性について、「そう思う」（“強くそう思う” “まあまあそう思う” “少しそう思う” の回答の合計）が最も多いのは、「人に気をつかう、やさしい人間だと思う」が71.0%、次いで、「冷静で、気分が安定していると思う」が50.7%、「活発で、外交的だと思う」が49.8%の順となっている。

逆に、「違うと思う」（“全く違うと思う” “おおよそ違うと思う” “少し違うと思う” の回答の合計）が最も多いのは、「他人に不満をもち、もめごとを起こしやすいと思う」が72.4%となっている。（図表Ⅱ-1）

〈図表Ⅱ-1〉 自身の性格特性



自身の性格特性について「そう思う」の回答を性別にみると、「他人に不満をもち、もめごとを起こしやすいと思う」「新しいことが好きで、変った考えをもつと思う」「ひかえめで、おとなしいと思う」は、男性が女性を上回っている。一方、「心配性で、うろたえやすいと思う」「発想力に欠けた、平凡な人間だと思う」は男性より女性で高くなっている。

年齢別にみると、積極的な評価の「しっかりしていて、自分に厳しいと思う」は75～79歳、90歳以上、「冷静で、気分が安定していると思う」は90歳以上で、それぞれ高くなっている。逆に、消極的な評価の「心配性で、うろたえやすいと思う」は75～79歳、「発想力に欠けた、平凡な人間だと思う」は80～84歳で、それぞれ高くなっている。(図表Ⅱ-2)

〈図表Ⅱ-2〉 自身の性格特性〔性・年齢別〕 【「そう思う」の回答率】

(単位：%)

		N	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
			と活 思発 うで、 外交的 だ	こち他 し、人 やもに すめ不 いご満 とを 思をも う起	とてし 思、つ う自か に分り にし 厳て しい	え心 や配 す性 いで、 と 思う うろ た	もで新 つ、し と変い 思つこ うたが 考え好 えきを
全 体		2,083	49.8	5.8	41.5	37.9	28.2
性別	男 性	964	47.6	8.5	41.7	▲31.8	33.6
	女 性	1,119	51.7	▲3.4	41.4	43.1	▲23.6
本人 年齢別	60～64歳	353	50.1	7.1	39.4	37.4	29.5
	65～69歳	406	48.5	6.2	▲34.5	▲33.5	28.3
	70～74歳	497	48.5	5.8	40.0	38.2	27.0
	75～79歳	407	50.6	▲3.4	46.2	42.3	26.3
	80～84歳	242	54.5	8.3	45.9	33.5	28.5
	85～89歳	132	47.0	3.8	47.0	44.7	32.6
	90歳以上	46	47.8	4.3	56.5	41.3	34.8

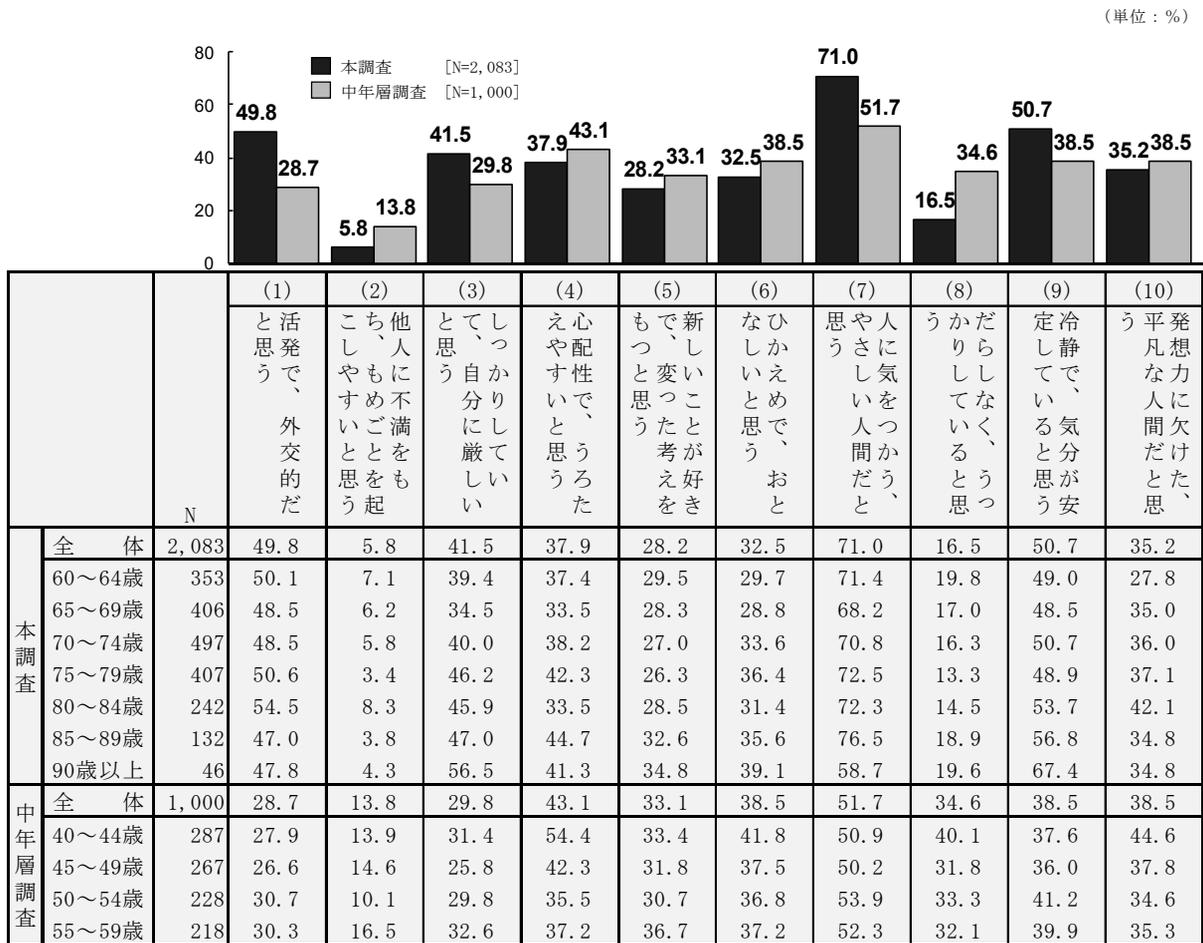
		N	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
			なひ しか いえ とめ 思で、 う おと	思や人 うさに し気 いを 人つ 間か だう、 と	うかだ りらし しなく いく、 ると う思	定冷 し静 てで、 い る気 と分 思が う安	う平発 凡想 な力 人に 間欠 だけ た、 思
全 体		2,083	32.5	71.0	16.5	50.7	35.2
性別	男 性	964	37.0	69.4	15.1	52.4	▲28.1
	女 性	1,119	▲28.7	72.4	17.6	49.3	41.4
本人 年齢別	60～64歳	353	29.7	71.4	19.8	49.0	▲27.8
	65～69歳	406	28.8	68.2	17.0	48.5	35.0
	70～74歳	497	33.6	70.8	16.3	50.7	36.0
	75～79歳	407	36.4	72.5	13.3	48.9	37.1
	80～84歳	242	31.4	72.3	14.5	53.7	42.1
	85～89歳	132	35.6	76.5	18.9	56.8	34.8
	90歳以上	46	39.1	58.7	19.6	67.4	34.8

調査方法が異なるため、単純に比較できないが、40～50 歳代の中年層調査と比べると、積極的な評価の「活発で、外交的だと思う」「しっかりしていて、自分に厳しいと思う」「人に気がつかう、やさしい人間だと思う」「冷静で、気分が安定していると思う」は、中年層より 60 歳代以上の方がいずれも 10 ポイント以上大きく上回っている。

一方、消極的な評価の「他人に不満をもち、もめごとを起こしやすいと思う」「心配性で、うろたえやすいと思う」「ひかえめで、おとなしいと思う」「だらしなく、うっかりしていると思う」は、60 歳代以上が中年層を 5 ポイント以上、下回っている。特に開きが大きいのは「だらしなく、うっかりしていると思う」で、18.1 ポイント差となっている。

全体的に、中年層に比べると、60 歳代以上は自身の性格特性をポジティブに捉える傾向がみられる。(図表Ⅱ-3)

〈図表Ⅱ-3〉 自身の性格特性 「[中年層調査]との比較:参考」 【そう思う】の回答率



(2) 過去の生活行動（夏休みの宿題の実施時期）

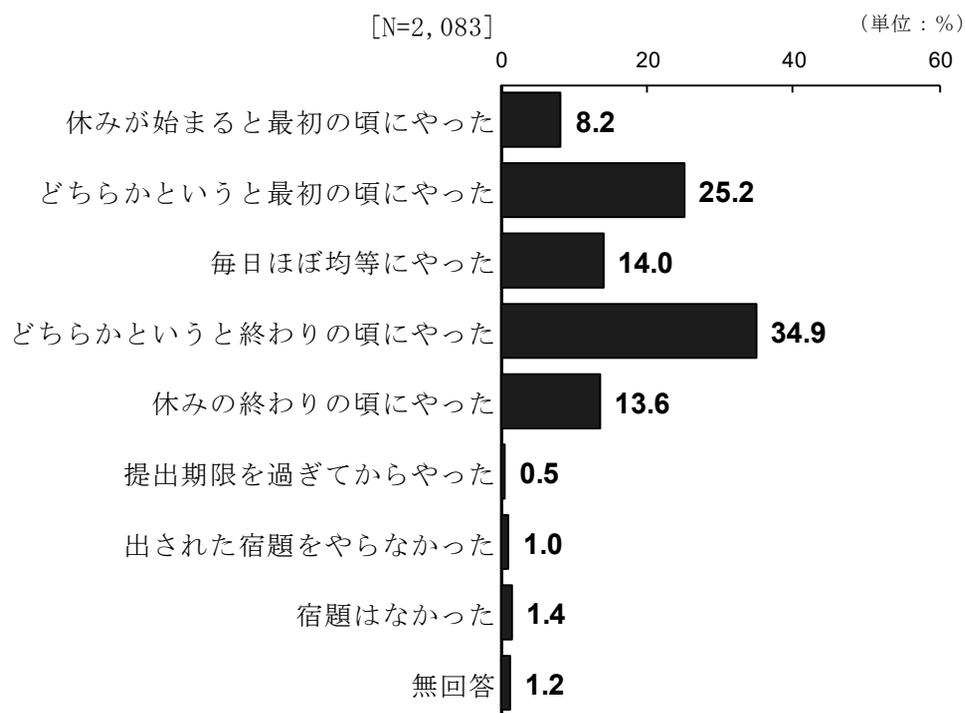
Q7 あなたの過去の経験についてお尋ねします。あなたが子どもの時、夏休みや冬休みのような長い休みに出された宿題をいつ頃やるが多かったですか。この中から1つだけお答えください。

- 1 休みが始まると最初の頃にやった
- 2 どちらかというと最初の頃にやった
- 3 毎日ほぼ均等にやった
- 4 どちらかというと終わりの頃にやった
- 5 休みの終わりの頃にやった
- 6 提出期限を過ぎてからやった
- 7 出された宿題をやらなかった
- 8 宿題はなかった

長い休みに出された宿題をやる時期については、「どちらかというと終わりの頃にやった」が34.9%と最も多い。次いで、「どちらかというと最初の頃にやった」が25.2%、「毎日ほぼ均等にやった」が14.0%、「休みの終わりの頃にやった」が13.6%と続いている。

総じて、「最初の頃に」比べて「終わりの頃に」やったという人が多い傾向となっている。（図表Ⅱ-4）

〈図表Ⅱ-4〉 過去の生活行動（夏休みの宿題の実施時期）



性別にみると、「どちらかという最初の頃にやった」と「毎日ほぼ均等にやった」は、男性よりも女性で高くなっている。一方、「どちらかという終わりの頃にやった」「休みの終わりの頃にやった」「提出期限を過ぎてからやった」は、男性の方が女性を上回っている。

女性は比較的「最初の頃に」、男性は比較的「終わりの頃に」やった、という傾向がみられる。

年齢別にみると、「毎日ほぼ均等にやった」は75～79歳で高くなっている。

「休みが始まると最初の頃にやった」は85～89歳で高く、「どちらかという終わりの頃にやった」は、85歳以上の層で低くなっている。

総じて、年齢層が高くなるほど、「最初の頃に」やったという傾向がみられる。〈図表Ⅱ-5〉

〈図表Ⅱ-5〉 過去の生活行動（夏休みの宿題の実施時期）【性・年齢別】

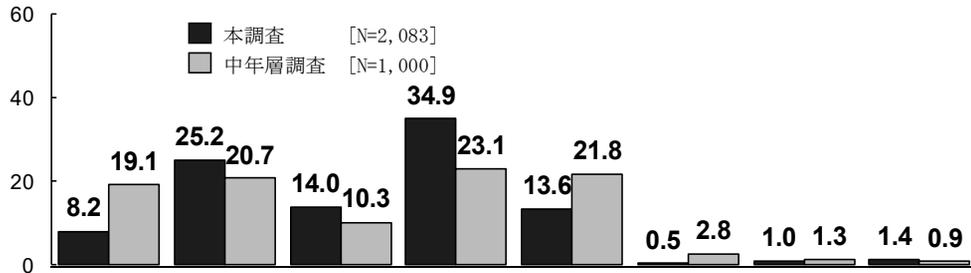
(単位：%)

		N	最 初 の 頃 に ま や っ た	最 初 の 頃 か い っ た	や っ た 日 が ほ ぼ 均 等 に	終 わ り の 頃 に や っ た	休 み の 終 わ り の 頃 に	提 出 期 限 を 過 ぎ て	出 さ な れ な か つ た	宿 題 は な か つ た	無 回 答
全 体		2,083	8.2	25.2	14.0	34.9	13.6	0.5	1.0	1.4	1.2
性別	男 性	964	7.5	▲21.2	▲9.1	③7.8	①9.3	①0.8	1.5	1.6	1.3
	女 性	1,119	8.8	②8.6	①8.2	▲32.5	▲8.7	▲0.2	0.6	1.3	1.2
本人 年齢別	60～64歳	353	10.5	21.2	13.6	38.8	13.3	①1.7	0.3	-	0.6
	65～69歳	406	8.6	23.6	▲10.8	37.4	16.3	0.5	1.0	-	1.7
	70～74歳	497	6.2	26.0	13.9	38.0	13.5	0.4	1.2	▲0.4	0.4
	75～79歳	407	▲4.7	28.7	①7.7	32.7	13.0	-	0.7	1.0	1.5
	80～84歳	242	9.5	28.9	11.2	31.4	14.5	-	1.7	②2.9	-
	85～89歳	132	①3.6	22.7	15.9	▲24.2	8.3	-	2.3	②9.1	③3.8
90歳以上	46	15.2	15.2	23.9	▲19.6	8.7	-	-	③8.7	③8.7	

調査方法が異なるため、単純に比較できないが、40～50歳代の中年層調査と比べると、両極となる「休みが始まると最初の頃にやった」と「休みの終わりの頃にやった」は、いずれも中年層が60歳代以上を大きく上回っている。一方、60歳代以上の方が高くなっているのは「どちらかというと終わりの頃にやった」で、中年層を11.8ポイント上回っている。〈図表Ⅱ-6〉

〈図表Ⅱ-6〉 過去の生活行動（夏休みの宿題の実施時期） [「中年層調査」との比較：参考]

(単位：%)



		N	最 初 の 頃 に ま る と や っ た	最 ど ち の 頃 に や い っ た	や 毎 日 た ほ ぼ 均 等 に	終 ど わ り の 頃 に や っ た	や 休 み の 終 わ り の 頃 に	か 提 出 期 限 を 過 ぎ て	や 出 ら な れ な か つ た 宿 題 を	宿 題 は な か つ た
本 調 査	全 体	2,083	8.2	25.2	14.0	34.9	13.6	0.5	1.0	1.4
	60～64歳	353	10.5	21.2	13.6	38.8	13.3	1.7	0.3	-
	65～69歳	406	8.6	23.6	10.8	37.4	16.3	0.5	1.0	-
	70～74歳	497	6.2	26.0	13.9	38.0	13.5	0.4	1.2	0.4
	75～79歳	407	4.7	28.7	17.7	32.7	13.0	-	0.7	1.0
	80～84歳	242	9.5	28.9	11.2	31.4	14.5	-	1.7	2.9
	85～89歳	132	13.6	22.7	15.9	24.2	8.3	-	2.3	9.1
	90歳以上	46	15.2	15.2	23.9	19.6	8.7	-	-	8.7
中 年 層 調 査	全 体	1,000	19.1	20.7	10.3	23.1	21.8	2.8	1.3	0.9
	40～44歳	287	21.6	22.6	9.1	19.5	21.6	3.1	0.7	1.7
	45～49歳	267	21.3	21.3	8.6	24.7	20.2	1.5	1.5	0.7
	50～54歳	228	16.2	20.2	10.5	21.9	24.1	3.9	2.2	0.9
	55～59歳	218	16.1	17.9	13.8	27.1	21.6	2.8	0.9	-

性別にみると、男性の方が女性に比べ時間割引率が高い（せっかちな）傾向がみられ、「100%」は女性より男性の方が6.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、高年齢層ほど時間割引率が高い（せっかちな）傾向がみられ、「100%」は80歳以上の層でいずれも高くなっており、逆に、60歳代ではいずれも低くなっている。〈図表Ⅱ-8〉

〈図表Ⅱ-8〉 時間割引率 [性・年齢別]

(単位：%)

		N	0%	2.1%	22%	60%	100%	その他・無回答
全 体		2,083	7.2	5.8	54.0	12.4	17.2	3.4
性別	男 性	964	7.0	▲ 4.1	52.5	13.0	②0.4	3.0
	女 性	1,119	7.5	⑦.1	55.3	11.9	▲14.4	3.8
本人年齢別	60～64歳	353	9.1	6.5	⑥0.9	11.6	▲10.2	1.7
	65～69歳	406	5.4	5.7	⑤8.4	13.5	▲13.8	3.2
	70～74歳	497	6.8	5.6	55.3	13.1	16.7	2.4
	75～79歳	407	6.4	6.1	50.9	13.0	18.4	⑤.2
	80～84歳	242	9.5	5.0	▲45.9	12.8	②3.1	3.7
	85～89歳	132	7.6	6.1	50.0	▲ 6.8	②7.3	2.3
	90歳以上	46	8.7	2.2	▲30.4	8.7	③4.8	①5.2

本人年収別にみると、特に差はみられない。〈図表Ⅱ-9〉

〈図表Ⅱ-9〉 時間割引率 [本人年収別]

(単位：%)

		N	0%	2.1%	22%	60%	100%	その他・無回答
全 体		2,083	7.2	5.8	54.0	12.4	17.2	3.4
本人年収別	収入はない	292	8.9	⑧.6	51.4	12.7	15.4	3.1
	100万円未満	435	6.0	5.5	54.9	11.5	18.6	3.4
	100～500万円未満	1,072	6.9	5.5	54.5	13.5	16.7	2.9
	500～1,000万円未満	135	7.4	5.2	61.5	▲ 5.2	17.8	3.0
	1,000～2,000万円未満	25	4.0	12.0	56.0	8.0	20.0	-
	2,000万円以上	13	15.4	-	38.5	7.7	23.1	①5.4

世帯保有金融資産別にみると、「2.1%」は2,000～5,000万円未満層で高くなっている。

一方、「60%」は100～1,000万円未満層で高く、2,000万円以上1億円未満の各層では低くなっている。また、「100%」は100万円未満層で高く、1,000万円以上1億円未満の各層で、低くなっている。

総じて、低資産層ほど時間割引率（せっかちさ）が高い傾向がみられる。〈図表Ⅱ－10〉

〈図表Ⅱ－10〉 時間割引率〔世帯保有金融資産別〕

(単位：%)

		N	0%	2.1%	22%	60%	100%	その他・無回答
全 体		2,083	7.2	5.8	54.0	12.4	17.2	3.4
金融資産別 世帯保有	100万円未満	303	7.9	5.6	▲43.9	13.9	○26.1	2.6
	100～1,000万円未満	527	5.9	4.4	54.5	○15.4	17.6	2.3
	1,000～2,000万円未満	273	8.4	4.4	○63.0	8.8	▲12.5	2.9
	2,000～5,000万円未満	302	4.6	○10.3	○65.9	▲7.9	▲9.9	▲1.3
	5,000万円～1億円未満	119	6.7	8.4	○69.7	▲3.4	▲8.4	3.4
	1億円以上	23	4.3	4.3	60.9	8.7	17.4	4.3

調査方法が異なるため、単純に比較できないが、40～50 歳代の中年層調査と比べると、「22%」が最も多くを占める点は同様に、回答率も大きく変わらない。

「60%」は 60 歳代以上が 4.2 ポイント上回っており、「100%」は中年層の 10.9%を、60 歳代以上が 6.3 ポイント上回っている。逆に、「2.1%」「0%」は中年層が 60 歳代以上を上回っている。

これらのことから、中年層に比べて 60 歳代以上の方が、時間割引率（せっかちさ）が高いことがみてとれる。（図表Ⅱ－11）

〈図表Ⅱ－11〉 時間割引率 「中年層調査」との比較：参考

（単位：％）



（単位：％）

		N	0%	2.1%	22%	60%	100%	その他・無回答
本調査	全 体	2,083	7.2	5.8	54.0	12.4	17.2	3.4
	60～64歳	353	9.1	6.5	60.9	11.6	10.2	1.7
	65～69歳	406	5.4	5.7	58.4	13.5	13.8	3.2
	70～74歳	497	6.8	5.6	55.3	13.1	16.7	2.4
	75～79歳	407	6.4	6.1	50.9	13.0	18.4	5.2
	80～84歳	242	9.5	5.0	45.9	12.8	23.1	3.7
	85～89歳	132	7.6	6.1	50.0	6.8	27.3	2.3
	90歳以上	46	8.7	2.2	30.4	8.7	34.8	15.2
中年層調査	全 体	1,000	13.9	13.3	52.9	8.2	10.9	0.8
	40～44歳	287	13.9	15.3	50.2	7.7	11.5	1.4
	45～49歳	267	18.7	13.9	47.6	9.4	10.1	0.4
	50～54歳	228	11.4	11.8	57.0	7.5	11.0	1.3
	55～59歳	218	10.6	11.5	58.7	8.3	11.0	-

(2) リスク回避性

「リスク回避性」を捉えるため、傘を持ち歩く降水確率について尋ねた。

Q6 あなたの普段の生活についてお尋ねします。あなたは、お出かけになるとき、天気予報の降水確率が何%以上ならば傘を持って出かけますか。

%以上 0 いつも傘を持ち歩いている

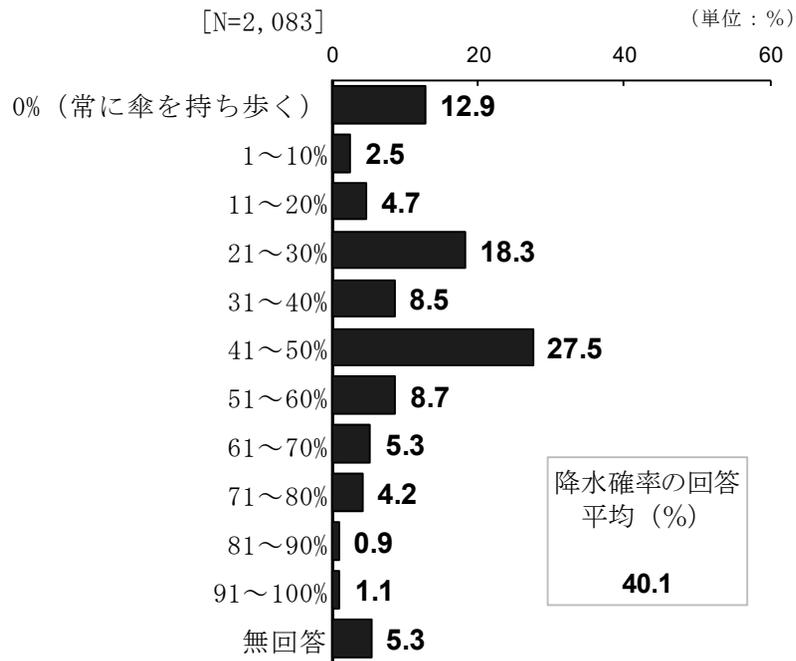
【リスク回避性】

1	0% (常に傘を持ち歩く)	7	51~60%
2	1~10%	8	61~70%
3	11~20%	9	71~80%
4	21~30%	10	81~90%
5	31~40%	11	91~100%
6	41~50%		

その結果、「41~50%」が 27.5%と最も多く、次いで「21~30%」18.3%の順になっている。また、「0% (常に傘を持ち歩く)」は 12.9%となっている。

降水確率からみたリスク回避性の平均は、40.1%となっている。〈図表Ⅱ-12〉

〈図表Ⅱ-12〉 リスク回避性



性別にみると、「0%（常に傘を持ち歩く）」は男性よりも女性の方が高く、一方、「51～60%」「71～80%」は男性が女性を上回っている。

降水確率からみたリスク回避性の平均は、女性が37.9%、男性が42.7%であり、全体的に、女性に比べて男性の方が、リスク回避性は低い傾向がみられる。

年齢別にみると、「1～10%」は、80歳代で高くなっている。「31～40%」は60～64歳の層で高く、80歳代で低くなっている。また、これらに比べてよりリスク回避性が低くなる「51～60%」は、65～69歳で高くなっている。

降水確率からみたリスク回避性の平均は、80～84歳が37.4%、85～89歳が36.0%となっており、リスク回避性は他の年齢層に比べてやや高い傾向となっている。（図表Ⅱ－13）

〈図表Ⅱ－13〉 リスク回避性〔性・年齢別〕

（単位：％）

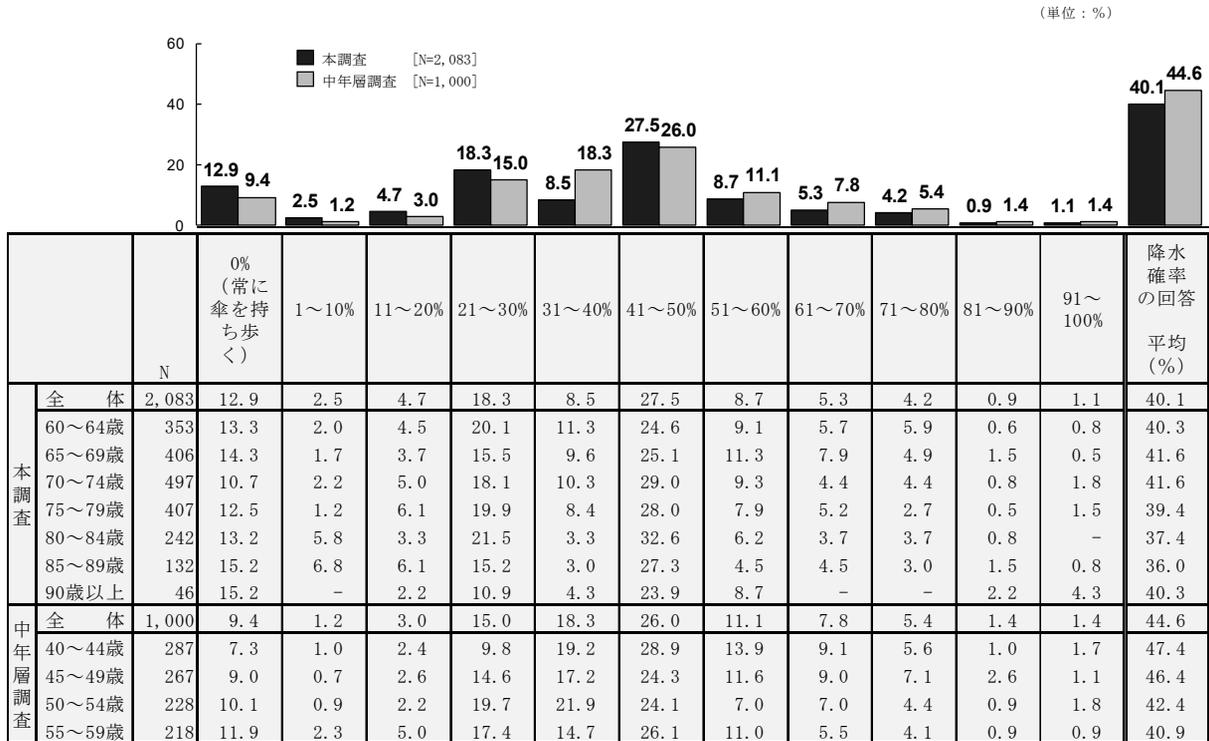
		N	0% （常に 傘を持 ち歩 く）	1～10%	11～20%	21～30%	31～40%	41～50%
全 体		2,083	12.9	2.5	4.7	18.3	8.5	27.5
性別	男 性	964	▲10.3	2.3	5.2	17.0	8.5	26.5
	女 性	1,119	○15.1	2.8	4.3	19.5	8.6	28.4
本人 年齢別	60～64歳	353	13.3	2.0	4.5	20.1	○11.3	24.6
	65～69歳	406	14.3	1.7	3.7	15.5	9.6	25.1
	70～74歳	497	10.7	2.2	5.0	18.1	10.3	29.0
	75～79歳	407	12.5	1.2	6.1	19.9	8.4	28.0
	80～84歳	242	13.2	○5.8	3.3	21.5	▲3.3	32.6
	85～89歳	132	15.2	○6.8	6.1	15.2	▲3.0	27.3
	90歳以上	46	15.2	-	2.2	10.9	4.3	23.9

		N	51～60%	61～70%	71～80%	81～90%	91～ 100%	無回答	降水 確率 の回答 平均 （％）
全 体		2,083	8.7	5.3	4.2	0.9	1.1	5.3	40.1
性別	男 性	964	○10.6	6.0	○5.2	1.2	1.5	5.8	42.7
	女 性	1,119	▲7.1	4.6	▲3.3	0.6	0.8	4.9	37.9
本人 年齢別	60～64歳	353	9.1	5.7	5.9	0.6	0.8	▲2.0	40.3
	65～69歳	406	○11.3	○7.9	4.9	1.5	0.5	3.9	41.6
	70～74歳	497	9.3	4.4	4.4	0.8	1.8	4.0	41.6
	75～79歳	407	7.9	5.2	2.7	0.5	1.5	6.1	39.4
	80～84歳	242	6.2	3.7	3.7	0.8	-	5.8	37.4
	85～89歳	132	4.5	4.5	3.0	1.5	0.8	○12.1	36.0
	90歳以上	46	8.7	-	-	2.2	○4.3	○28.3	40.3

調査方法が異なるため、単純に比較できないが、40～50 歳代の中年層調査と比べると、降水確率からみたリスク回避性の平均は、中年層の 44.6%に比べて、60 歳代以上は 40.1%と下回っている。また、「0%（常に傘を持ち歩く）」は中年層の 9.4%に比べて、60 歳代以上は 12.9%とやや上回っている。

総じて、中年層に比べて、60 歳代以上はリスク回避性が高い傾向がみられる。〈図表Ⅱ－14〉

〈図表Ⅱ－14〉 リスク回避性 「中年層調査」との比較：参考



(3) 損失回避性

投資行動からみた損失回避性を捉えるため、以下のように、ある投資状況を思い浮かべて、自分ならどうしたいかについて尋ねた。

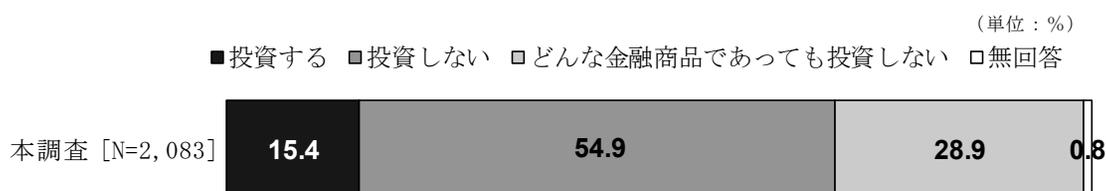
Q9 あなたは自由に使える 10 万円のお金を持っているとします。その 10 万円を使って金融商品に投資すると、2 万円増えて 12 万円になる可能性と 1 万円減って 9 万円になる可能性が半分ずつあります。あなたなら、10 万円を使ってこの金融商品に投資しますか。それとも、投資しないですか。この中から 1 つだけお答えください。

【損失回避性】

- 1 投資する
- 2 投資しない
- 3 どんな金融商品であっても投資しない

提示した投資状況の損失回避性については、「投資しない」が 54.9%を占め、「投資する」の 15.4%を大きく上回っている。なお、「どんな金融商品であっても投資しない」は 28.9%となっている。〈図表Ⅱ-15〉

〈図表Ⅱ-15〉 損失回避性



性別にみると、「投資しない」については、大きな差はみられない。「投資する」は男性が女性を大きく上回り、逆に、「どんな金融商品であっても投資しない」は女性が男性を上回っている。

年齢別にみると、「投資しない」「投資する」ともに、特に差はみられない。「どんな金融商品であっても投資しない」は 60～64 歳の層で低くなっている。〈図表Ⅱ-16〉

〈図表Ⅱ-16〉 損失回避性 [性・年齢別]

(単位：%)

		N	投資する	投資しない	投品ど 資でん しあな なつ金 いて融 も商	無 回 答
全 体		2, 083	15.4	54.9	28.9	0.8
性別	男 性	964	②0.2	53.2	▲25.9	0.6
	女 性	1, 119	▲11.3	56.3	③1.5	1.0
本人 年 齢 別	60～64歳	353	17.0	58.9	▲23.8	0.3
	65～69歳	406	17.5	51.7	29.6	1.2
	70～74歳	497	16.7	55.1	28.0	0.2
	75～79歳	407	12.8	56.0	29.2	②.0
	80～84歳	242	14.0	52.9	32.6	0.4
	85～89歳	132	10.6	56.1	33.3	-
	90歳以上	46	15.2	45.7	37.0	2.2

本人年収別にみると、「投資する」は、500～1,000万円未満層で高くなっており、100万円未満層では低くなっている。一方、「どんな金融商品であっても投資しない」は500～1,000万円未満層で低くなっている。〈図表Ⅱ-17〉

〈図表Ⅱ-17〉 損失回避性 [本人年収別]

(単位：%)

		N	投資する	投資しない	しど なあ ん い つ な も 融 投 資 品	無 回 答
全 体		2,083	15.4	54.9	28.9	0.8
本人 年 収 別	収 入 は な い	292	13.0	53.4	32.5	1.0
	100 万 円 未 満	435	▲12.2	58.2	29.2	0.5
	100 ～ 500 万 円 未 満	1,072	16.0	54.4	29.0	0.7
	500 ～ 1,000 万 円 未 満	135	○25.2	54.8	▲18.5	1.5
	1,000 ～ 2,000 万 円 未 満	25	○36.0	48.0	16.0	-
	2,000 万 円 以 上	13	23.1	46.2	30.8	-

世帯保有金融資産別にみると、「投資する」は、2,000万円以上の高資産層で高く、一方、100万円未満層では9.9%と低くなっている。〈図表Ⅱ-18〉

〈図表Ⅱ-18〉 損失回避性 [世帯保有金融資産別]

(単位：%)

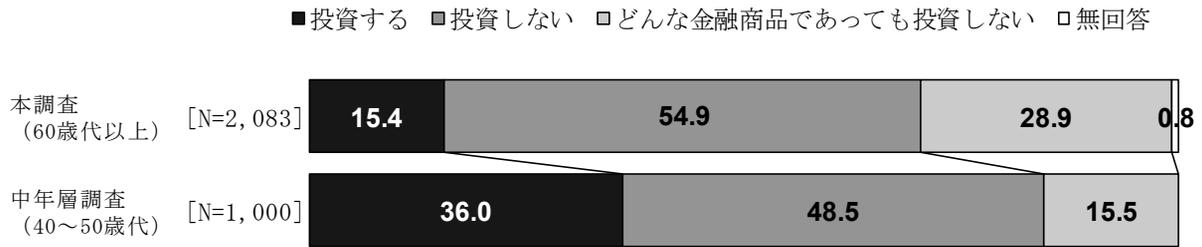
		N	投資する	投資しない	しど なあ ん い つ な も 融 投 資 品	無 回 答
全 体		2,083	15.4	54.9	28.9	0.8
金 融 資 産 別	100 万 円 未 満	303	▲9.9	57.4	32.3	0.3
	100 ～ 1,000 万 円 未 満	527	14.6	53.7	31.3	0.4
	1,000 ～ 2,000 万 円 未 満	273	15.8	54.6	28.6	1.1
	2,000 ～ 5,000 万 円 未 満	302	○27.5	52.0	▲20.2	0.3
	5,000 万 円 ～ 1 億 円 未 満	119	○22.7	51.3	25.2	0.8
	1 億 円 以 上	23	○43.5	39.1	17.4	-

調査方法が異なるため、単純に比較できないが、40～50歳代の中年層調査と比べると、「投資しない」は中年層の48.5%に比べて、60歳代以上は54.9%と6.4ポイント上回っている。「どんな金融商品であっても投資しない」も、中年層の15.5%に比べて、60歳代以上は28.9%と大きく上回っている（13.4ポイント差）。

一方、「投資する」は中年層の36.0%に比べて、60歳代以上は20.6ポイント下回っており、総じて、中年層に比べて、60歳代以上は損失回避性が高い傾向がみられる。〈図表Ⅱ-19〉

〈図表Ⅱ-19〉 損失回避性 「中年層調査」との比較：参考

(単位：%)



(単位：%)

		N	投資する	投資しない	しでど なあん いつな て金 も融 投商 資品
本調査	全 体	2,083	15.4	54.9	28.9
	60～64歳	353	17.0	58.9	23.8
	65～69歳	406	17.5	51.7	29.6
	70～74歳	497	16.7	55.1	28.0
	75～79歳	407	12.8	56.0	29.2
	80～84歳	242	14.0	52.9	32.6
	85～89歳	132	10.6	56.1	33.3
	90歳以上	46	15.2	45.7	37.0
	中年層調査	全 体	1,000	36.0	48.5
40～44歳		287	40.1	45.3	14.6
45～49歳		267	32.2	50.2	17.6
50～54歳		228	36.0	49.1	14.9
55～59歳		218	35.3	50.0	14.7

(4) リスク意識

前述のリスク回避性と損失回避性の回答結果から、「リスク意識」を以下のように設けた。

Q6 あなたの普段の生活についてお尋ねします。あなたは、お出かけになるとき、天気予報の降水確率が何%以上ならば傘を持って出かけますか。

%以上 0 いつも傘を持ち歩いている

【リスク回避性】

1	0%（常に傘を持ち歩く）	7	51～60%
2	1～10%	8	61～70%
3	11～20%	9	71～80%
4	21～30%	10	81～90%
5	31～40%	11	91～100%
6	41～50%		

Q9 あなたは自由に使える10万円のお金を持っているとします。その10万円を使って金融商品に投資すると、2万円増えて12万円になる可能性と1万円減って9万円になる可能性が半分ずつあります。あなたなら、10万円を使ってこの金融商品に投資しますか。それとも、投資しないですか。この中から1つだけお答えください。

【損失回避性】

- 1 投資する
- 2 投資しない
- 3 どんな金融商品であっても投資しない

【リスク意識】

※リスク回避性と損失回避性の回答結果に以下の点数を与えて、加算（数量化）＝リスク意識量とする
 [リスク回避性の回答：「61%～100%」⇒3点、「21%～60%」⇒2点、「0%～20%」⇒1点]
 +
 [損失回避性の回答：「投資する」⇒3点、「投資しない」⇒2点、「どんな金融商品であっても投資しない」⇒1点]

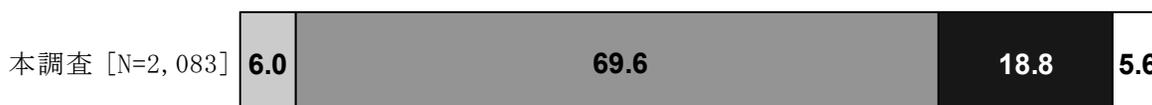
- 1 リスク積極度低…リスク意識量が2点
- 2 リスク積極度中…リスク意識量が3～4点
- 3 リスク積極度高…リスク意識量が5～6点
- 4 無回答あり…上記に当てはまらない回答

その結果、「リスク積極度中」が69.6%と圧倒的に多く、「リスク積極度高」は18.8%、「リスク積極度低」は6.0%となっている。（図表Ⅱ－20）

〈図表Ⅱ－20〉 リスク意識

（単位：％）

□リスク積極度低 □リスク積極度中 ■リスク積極度高 □無回答あり



性別にみると、「リスク積極度高」は女性より男性で高く、「リスク積極度中」「リスク積極度低」はいずれも男性より女性で高い。

年齢別にみると、「リスク積極度低」は、90歳以上で高くなっており、「リスク積極度中」は90歳以上で低くなっている。〈図表Ⅱ-21〉

〈図表Ⅱ-21〉 リスク意識 [性・年齢別]

(単位：%)

		N	リスク積極度低	リスク積極度中	リスク積極度高	無回答あり
全 体		2,083	6.0	69.6	18.8	5.6
性別	男 性	964	▲ 4.5	▲ 65.5	○ 24.2	5.9
	女 性	1,119	○ 7.3	○ 73.2	▲ 14.1	5.4
本人年齢別	60～64歳	353	4.0	72.2	21.8	▲ 2.0
	65～69歳	406	5.9	68.5	21.7	3.9
	70～74歳	497	▲ 3.8	72.6	19.5	4.0
	75～79歳	407	6.9	69.5	16.2	7.4
	80～84歳	242	8.7	70.7	14.5	6.2
	85～89歳	132	9.8	63.6	14.4	○ 12.1
	90歳以上	46	○ 13.0	▲ 39.1	19.6	○ 28.3

本人年収別にみると、「リスク積極度高」が500～1,000万円未満層で高くなっている以外は、特に差はみられない。〈図表Ⅱ-22〉

〈図表Ⅱ-22〉 リスク意識 [本人年収別]

(単位：%)

		N	リスク積極度低	リスク積極度中	リスク積極度高	無回答あり
全 体		2,083	6.0	69.6	18.8	5.6
本人年収別	収入はなし	292	4.8	70.5	18.5	6.2
	100万円未満	435	5.5	71.5	16.3	6.7
	100～500万円未満	1,072	6.6	70.1	18.8	▲ 4.5
	500～1,000万円未満	135	5.9	64.4	○ 27.4	2.2
	1,000～2,000万円未満	25	-	68.0	32.0	-
	2,000万円以上	13	-	76.9	7.7	15.4

世帯保有金融資産別にみると、「リスク積極度高」は2,000～5,000万円未満層で高くなっており、「リスク積極度中」は100～1,000万円未満層で高くなっている。〈図表Ⅱ-23〉

〈図表Ⅱ-23〉 リスク意識〔世帯保有金融資産別〕

(単位：%)

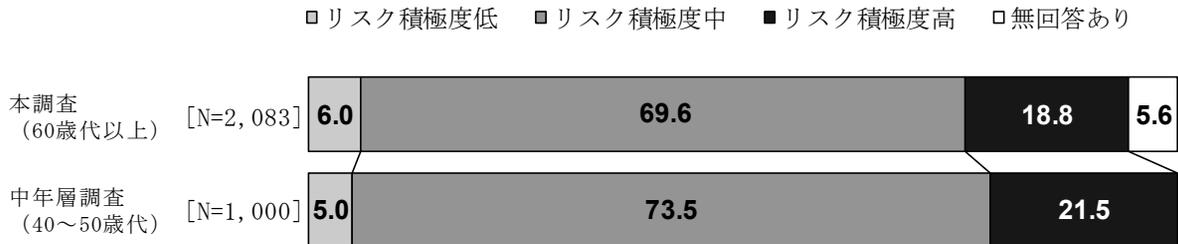
		N	リスク積極度低	リスク積極度中	リスク積極度高	無回答あり
全 体		2,083	6.0	69.6	18.8	5.6
金融資産別 世帯保有	100万円未満	303	6.9	67.3	19.8	5.9
	100～1,000万円未満	527	5.7	73.2	17.5	▲ 3.6
	1,000～2,000万円未満	273	6.2	73.3	16.8	3.7
	2,000～5,000万円未満	302	4.0	64.9	30.1	▲ 1.0
	5,000万円～1億円未満	119	7.6	68.1	21.8	2.5
	1億円以上	23	-	65.2	34.8	-

調査方法が異なるため、単純に比較できないが、40～50歳代の中年層調査と比べると、「リスク積極度高」は中年層の21.5%に比べて、60歳代以上は2.7ポイント下回っている。「リスク積極度中」も中年層の73.5%に比べて、60歳代以上は3.9ポイント下回っている。

総じて、中年層に比べて、60歳代以上はリスク積極度が低い傾向がみられる。(図表Ⅱ-24)

〈図表Ⅱ-24〉 リスク意識 [「中年層調査」との比較：参考]

(単位：%)



(単位：%)

		N	リスク積極度低	リスク積極度中	リスク積極度高
本調査	全 体	2,083	6.0	69.6	18.8
	60～64歳	353	4.0	72.2	21.8
	65～69歳	406	5.9	68.5	21.7
	70～74歳	497	3.8	72.6	19.5
	75～79歳	407	6.9	69.5	16.2
	80～84歳	242	8.7	70.7	14.5
	85～89歳	132	9.8	63.6	14.4
	90歳以上	46	13.0	39.1	19.6
	中年層調査	全 体	1,000	5.0	73.5
	40～44歳	287	4.2	75.6	20.2
	45～49歳	267	4.5	69.7	25.8
	50～54歳	228	4.8	75.4	19.7
	55～59歳	218	6.9	73.4	19.7

3. 金融・保険リテラシー

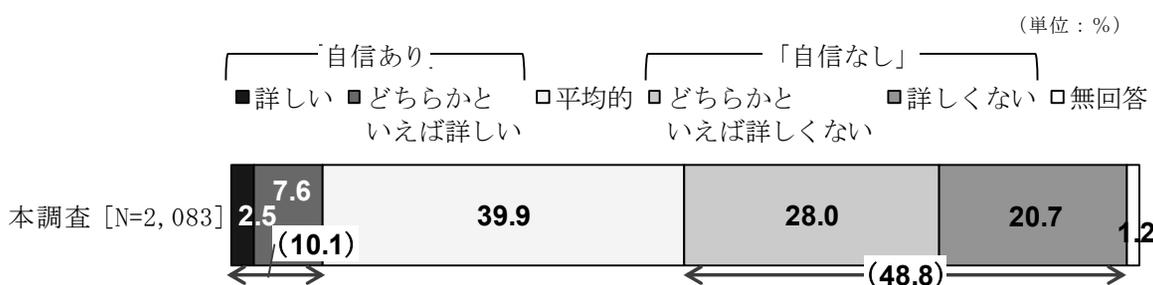
(1) 金融・保険に関する知識への自信

Q17 あなたは、他の人と比べて、金融や保険について詳しいと思いますか。

1 詳しい
2 どちらかといえば詳しい
3 平均的
4 どちらかといえば詳しくない
5 詳しくない

金融や保険に関する知識について、「自信あり」（“詳しい”と“どちらかといえば詳しい”の回答の合計）は 10.1%で、「自信なし」（“どちらかといえば詳しくない”と“詳しくない”の回答の合計）の 48.8%を大きく下回っている。〈図表Ⅱ-25〉

〈図表Ⅱ-25〉 金融・保険に関する知識への自信



性別にみると、「自信あり」と「平均的」は女性よりも男性の方が高く、「自信なし」は男性より女性で高くなっている。

年齢別にみると、「自信あり」は特に差はみられない。「自信なし」は 85～89 歳の層で高くなっている。また、「詳しくない」に注目すると、概ね高齢層ほど高くなっている傾向がみられる。〈図表Ⅱ-26〉

〈図表Ⅱ-26〉 金融・保険に関する知識への自信 [性・年齢別]

(単位：%)

		N	詳しい	えど ばち 詳ら しか いと い	自信 あり	平均 的	自信 なし	い えど ばち 詳ら しか くと ない	詳 し く な い	無 回 答
全 体		2,083	2.5	7.6	10.1	39.9	48.8	28.0	20.7	1.2
性別	男 性	964	3.5	9.6	13.2	42.5	42.8	26.7	16.2	1.5
	女 性	1,119	1.6	5.9	7.5	37.6	53.9	29.2	24.7	1.0
本人 年齢 別	60～64歳	353	2.8	7.9	10.8	41.1	46.7	30.6	16.1	1.4
	65～69歳	406	2.7	7.6	10.3	43.1	45.3	27.3	18.0	1.2
	70～74歳	497	2.0	8.7	10.7	41.0	47.7	31.6	16.1	0.6
	75～79歳	407	2.5	7.1	9.6	40.0	49.4	26.0	23.3	1.0
	80～84歳	242	2.9	7.4	10.3	34.7	53.7	26.4	27.3	1.2
	85～89歳	132	1.5	5.3	6.8	32.6	58.3	23.5	34.8	2.3
	90歳以上	46	4.3	6.5	10.9	37.0	47.8	15.2	32.6	4.3

本人年収別にみると、「自信あり」は高収入層ほど高くなっている傾向がみられる。逆に「自信なし」は低収入層ほど高くなっている。〈図表Ⅱ-27〉

〈図表Ⅱ-27〉 金融・保険に関する知識への自信 [本人年収別]

(単位：%)

	N	詳しい	えど ばち 詳ら しか いと い	自信 あり	平均 的	自信 なし	いえど ばち 詳ら しか くと ない	詳 し く な い	無 回 答	
全 体	2,083	2.5	7.6	10.1	39.9	48.8	28.0	20.7	1.2	
本人 年 収 別	収 入 は な い	292	1.7	▲ 3.8	▲ 5.5	▲ 33.9	○ 58.9	28.8	○ 30.1	1.7
	100 万 円 未 満	435	▲ 0.9	▲ 4.8	▲ 5.7	36.8	○ 57.2	29.7	○ 27.6	▲ 0.2
	100 ～ 500 万 円 未 満	1,072	2.3	8.5	10.8	○ 42.4	▲ 45.5	28.6	▲ 16.9	1.2
	500 ～ 1,000 万 円 未 満	135	○ 7.4	○ 15.6	○ 23.0	46.7	▲ 28.1	▲ 20.0	▲ 8.1	2.2
	1,000 ～ 2,000 万 円 未 満	25	8.0	○ 20.0	○ 28.0	32.0	40.0	28.0	12.0	-
	2,000 万 円 以 上	13	○ 15.4	15.4	○ 30.8	53.8	▲ 15.4	15.4	-	-

世帯保有金融資産別にみると、「自信あり」は高資産層ほど高くなっている傾向がみられ、逆に、「自信なし」は100万円未満層で60.4%と最も高く、高資産層になるほど低くなっている傾向がみられる。〈図表Ⅱ-28〉

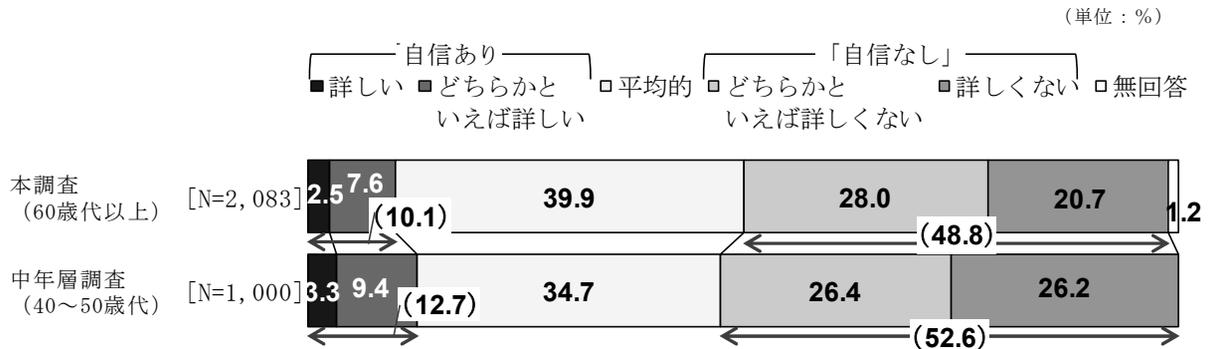
〈図表Ⅱ-28〉 金融・保険に関する知識への自信 [世帯保有金融資産別]

(単位：%)

	N	詳しい	えど ばち 詳ら しか いと い	自信 あり	平均 的	自信 なし	いえど ばち 詳ら しか くと ない	詳 し く な い	無 回 答	
全 体	2,083	2.5	7.6	10.1	39.9	48.8	28.0	20.7	1.2	
金 融 資 産 別	100 万 円 未 満	303	1.7	▲ 4.0	▲ 5.6	▲ 32.0	○ 60.4	29.7	○ 30.7	2.0
	100 ～ 1,000 万 円 未 満	527	2.5	6.6	9.1	40.2	50.3	30.2	20.1	▲ 0.4
	1,000 ～ 2,000 万 円 未 満	273	1.8	7.7	9.5	○ 45.8	▲ 43.2	25.6	17.6	1.5
	2,000 ～ 5,000 万 円 未 満	302	3.6	○ 10.9	○ 14.6	○ 46.7	▲ 37.4	24.8	▲ 12.6	1.3
	5,000 万 円 ～ 1 億 円 未 満	119	○ 6.7	○ 15.1	○ 21.8	47.9	▲ 29.4	▲ 20.2	▲ 9.2	0.8
	1 億 円 以 上	23	8.7	○ 26.1	○ 34.8	43.5	▲ 21.7	17.4	4.3	-

調査方法が異なるため、単純に比較できないが、40～50歳代の中年層調査と比べると、「自信あり」は中年層の12.7%に比べて、60歳代以上は2.6ポイント下回っている。一方、「自信なし」も中年層の52.6%に比べて、60歳代以上は3.8ポイント下回っている。〈図表Ⅱ-29〉

〈図表Ⅱ-29〉 金融・保険に関する知識への自信 「中年層調査」との比較：参考



(単位：%)

	N	自信あり		平均的	「自信なし」		無回答		
		詳しい	えど どちら 詳ら しか いと い		自信 なし	いえど どちら 詳ら しか くと ない			
本調査	全 体	2,083	2.5	7.6	10.1	39.9	48.8	28.0	20.7
	60～64歳	353	2.8	7.9	10.8	41.1	46.7	30.6	16.1
	65～69歳	406	2.7	7.6	10.3	43.1	45.3	27.3	18.0
	70～74歳	497	2.0	8.7	10.7	41.0	47.7	31.6	16.1
	75～79歳	407	2.5	7.1	9.6	40.0	49.4	26.0	23.3
	80～84歳	242	2.9	7.4	10.3	34.7	53.7	26.4	27.3
	85～89歳	132	1.5	5.3	6.8	32.6	58.3	23.5	34.8
	90歳以上	46	4.3	6.5	10.9	37.0	47.8	15.2	32.6
中年層調査	全 体	1,000	3.3	9.4	12.7	34.7	52.6	26.4	26.2
	40～44歳	287	2.8	10.1	12.9	30.3	56.8	27.5	29.3
	45～49歳	267	3.7	7.5	11.2	32.6	56.2	26.2	30.0
	50～54歳	228	3.1	9.2	12.3	39.9	47.8	26.3	21.5
	55～59歳	218	3.7	11.0	14.7	37.6	47.7	25.2	22.5

(2) 利息計算

Q18 あなたは、100万円を預貯金口座に預け入れました。金利は、年率2%だとします。また、この口座には誰もこれ以上お金を預け入れないとします。1年後、口座の残高はいくらになっていると思いますか。次の中から、最も近いと思う金額をお答えください。

1 100万円
 2 102万円
 3 110万円
 4 その他
 5 わからない

正答の「102万円」が69.6%と最も多く、抜きんでている。次いで、「100万円」が6.4%、「110万円」が0.4%と続いている。「その他」は4.9%、「わからない」は15.9%と1割台半ばに達している。〈図表Ⅱ-30〉

〈図表Ⅱ-30〉 利息計算1

(単位：%)



性別にみると、正答の「102万円」は女性の64.0%に比べ、男性が76.1%と大きく上回っている。一方、「わからない」は男性より女性の方が上回っている。

年齢別にみると、正答の「102万円」は60歳代で高くなっており、概ね高年齢層ほど低くなっている傾向がみられる。逆に「わからない」は高年齢層ほど高くなっている。〈図表Ⅱ-31〉

〈図表Ⅱ-31〉 利息計算1 [性・年齢別]

(単位：%)

		N	100万円	102万円	110万円	その他	わからない	無回答
全 体		2,083	6.4	69.6	0.4	4.9	15.9	2.7
性別	男 性	964	▲5.1	76.1	0.4	4.6	▲11.5	2.3
	女 性	1,119	7.6	▲64.0	0.4	5.3	19.7	3.0
本人年齢別	60～64歳	353	5.9	76.8	0.6	8.2	▲6.8	1.7
	65～69歳	406	7.1	74.6	-	3.9	▲12.3	2.0
	70～74歳	497	6.0	72.4	-	5.4	14.3	1.8
	75～79歳	407	6.6	▲65.1	1.0	4.7	18.2	4.4
	80～84歳	242	7.0	▲61.2	1.2	4.1	24.4	2.1
	85～89歳	132	4.5	62.1	-	1.5	26.5	5.3
	90歳以上	46	8.7	▲45.7	-	-	39.1	6.5

本人年収別にみると、正答の「102万円」は、100万円以上1,000万円未満の各層で高くなっている。一方、「わからない」は、収入はない、100万円未満の各層で高くなっている。〈図表Ⅱ-32〉

〈図表Ⅱ-32〉 利息計算1 [本人年収別]

(単位：%)

		N	100万円	102万円	110万円	その他	わからない	無回答
全 体		2,083	6.4	69.6	0.4	4.9	15.9	2.7
本人 年 収 別	収 入 は な い	292	9.9	▲62.7	-	4.5	21.2	1.7
	100 万 円 未 満	435	7.8	▲65.1	1.1	4.1	19.3	2.5
	100 ～ 500 万 円 未 満	1,072	5.4	73.0	0.4	5.0	▲13.7	2.4
	500 ～ 1,000 万 円 未 満	135	▲2.2	80.7	-	7.4	▲6.7	3.0
	1,000 ～ 2,000 万 円 未 満	25	-	84.0	-	4.0	12.0	-
	2,000 万 円 以 上	13	15.4	61.5	-	15.4	-	7.7

世帯保有金融資産別にみると、正答の「102万円」は、高資産層ほど高くなっている。一方、「わからない」は、100万円未満層で21.5%と最も高く、おおむね高資産層ほど低くなっている。〈図表Ⅱ-33〉

〈図表Ⅱ-33〉 利息計算1 [世帯保有金融資産別]

(単位：%)

		N	100万円	102万円	110万円	その他	わからない	無回答
全 体		2,083	6.4	69.6	0.4	4.9	15.9	2.7
金 融 資 産 別	100 万 円 未 満	303	8.9	▲62.0	0.7	3.3	21.5	3.6
	100 ～ 1,000 万 円 未 満	527	7.2	72.5	0.6	▲2.8	15.7	▲1.1
	1,000 ～ 2,000 万 円 未 満	273	7.7	73.3	0.4	6.2	▲10.3	2.2
	2,000 ～ 5,000 万 円 未 満	302	▲2.3	82.1	0.3	9.3	▲4.3	1.7
	5,000 万 円 ～ 1 億 円 未 満	119	2.5	84.0	0.8	7.6	▲4.2	0.8
	1 億 円 以 上	23	4.3	91.3	-	4.3	-	-

調査方法が異なるため、単純に比較できないが、40～50 歳代の中年層調査と比べると、正答の「102 万円」は中年層の 84.1%に比べて、60 歳代以上は大きく下回っている（14.5 ポイント差）。一方、「わからない」は、中年層に比べて、60 歳代以上が 6.3 ポイント上回っている。〈図表Ⅱ-34〉

〈図表Ⅱ-34〉 利息計算 1 「中年層調査」との比較：参考

(単位：%)



(単位：%)

		N	100万円	102万円	110万円	その他	わからない
本調査	全 体	2,083	6.4	69.6	0.4	4.9	15.9
	60～64歳	353	5.9	76.8	0.6	8.2	6.8
	65～69歳	406	7.1	74.6	-	3.9	12.3
	70～74歳	497	6.0	72.4	-	5.4	14.3
	75～79歳	407	6.6	65.1	1.0	4.7	18.2
	80～84歳	242	7.0	61.2	1.2	4.1	24.4
	85～89歳	132	4.5	62.1	-	1.5	26.5
	90歳以上	46	8.7	45.7	-	-	39.1
中年層調査	全 体	1,000	4.2	84.1	1.0	1.1	9.6
	40～44歳	287	2.8	82.2	2.1	0.7	12.2
	45～49歳	267	4.9	84.6	0.4	0.7	9.4
	50～54歳	228	4.4	84.2	0.4	1.3	9.6
	55～59歳	218	5.0	85.8	0.9	1.8	6.4

前問で、最も近いと思う金額を答えた人（「わからない」「無回答」を除く回答者）に、5年後の口座残高を以下のように尋ねた。

Q18SQ (Q18で1~4と答えた方へ) では、5年後には口座の残高はいくらになっていると思いますか。

1 110万円より多い
 2 ちょうど110万円
 3 110万円より少ない
 4 その他
 5 わからない

正答の「110万円より多い」が43.6%と最も多く、次いで、「ちょうど110万円」が23.7%、「110万円より少ない」が20.7%と続いている。(図表Ⅱ-35)

〈図表Ⅱ-35〉 利息計算2

(単位：%)



性別にみると、正答の「110万円より多い」は女性の36.8%に比べ、男性が50.8%と大きく上回っている。一方、「ちょうど110万円」「110万円より少ない」は男性より女性の方が上回っている。

年齢別にみると、正答の「110万円より多い」は65~69歳の層で高くなっている。「わからない」は概ね高年齢層ほど高くなっている。(図表Ⅱ-36)

〈図表Ⅱ-36〉 利息計算2 [性・年齢別]

(単位：%)

	N	110万円より多い	ちょうど110万円	110万円より少ない	その他	わからない	無回答	
全体	1,696	43.6	23.7	20.7	4.1	5.9	1.9	
性別	男性	831 (50.8)	▲20.1	▲18.7	4.0	4.9	1.6	
	女性	865 ▲36.8	(27.2)	(22.7)	4.3	6.8	2.3	
本人年齢別	60~64歳	323	43.3	25.7	22.9	4.0	▲2.5	1.5
	65~69歳	348	(48.9)	▲19.5	23.3	3.7	4.6	-
	70~74歳	417	42.9	23.3	21.1	5.3	4.3	(3.1)
	75~79歳	315	41.0	25.4	18.1	4.4	(8.9)	2.2
	80~84歳	178	43.8	25.3	▲14.6	3.4	(10.1)	2.8
	85~89歳	90	38.9	26.7	23.3	1.1	8.9	1.1
	90歳以上	25	36.0	20.0	16.0	4.0	(16.0)	(8.0)

本人年収別にみると、正答の「110万円より多い」は、概ね高収入層で高く、100～1,000万円未満の各層で高く、収入はない、100万円未満の各層で低くなっている。一方、「ちょうど110万円」「わからない」は、100万円未満層で高くなっている。〈図表Ⅱ-37〉

〈図表Ⅱ-37〉 利息計算2〔本人年収別〕

(単位：%)

		N	110万円 より多 い	ちよ う ど 110万円	110万円 より少 ない	その他	わか ら な い	無回答
全 体		1,696	43.6	23.7	20.7	4.1	5.9	1.9
本人 年 収 別	収 入 は な い	225	▲34.2	27.1	24.9	4.0	8.0	1.8
	100 万 円 未 満	340	▲35.6	○27.9	21.8	3.2	○8.8	2.6
	100 ～ 500 万 円 未 満	899	○46.6	22.4	20.0	4.2	5.3	1.4
	500 ～ 1,000 万 円 未 満	122	○60.7	▲15.6	14.8	4.9	▲0.8	3.3
	1,000 ～ 2,000 万 円 未 満	22	○68.2	-	31.8	-	-	-
	2,000 万 円 以 上	12	16.7	33.3	41.7	8.3	-	-

世帯保有金融資産別にみると、正答の「110万円より多い」は、高資産層ほど高くなっている。〈図表Ⅱ-38〉

〈図表Ⅱ-38〉 利息計算2〔世帯保有金融資産別〕

(単位：%)

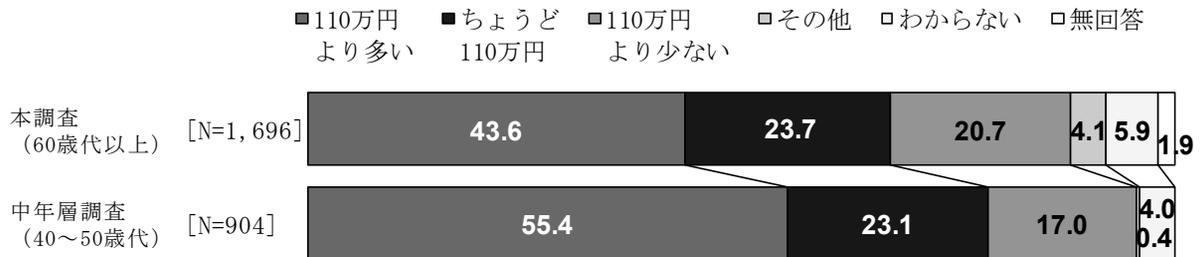
		N	110万円 より多 い	ちよ う ど 110万円	110万円 より少 ない	その他	わか ら な い	無回答
全 体		1,696	43.6	23.7	20.7	4.1	5.9	1.9
金 融 資 産 別	100 万 円 未 満	227	▲35.7	26.0	21.1	6.2	○9.7	1.3
	100 ～ 1,000 万 円 未 満	438	43.2	25.1	21.7	▲2.5	5.3	2.3
	1,000 ～ 2,000 万 円 未 満	239	49.4	22.2	21.3	5.4	▲1.3	0.4
	2,000 ～ 5,000 万 円 未 満	284	○54.9	▲19.0	▲15.1	4.6	4.9	1.4
	5,000 万 円 ～ 1 億 円 未 満	113	○56.6	▲13.3	18.6	7.1	3.5	0.9
	1 億 円 以 上	23	52.2	30.4	13.0	-	-	4.3

調査方法が異なるため、単純に比較できないが、40～50歳代の中年層調査と比べると、正答の「110万円より多い」は中年層の55.4%に比べて、60歳代以上は大きく下回っている(11.8ポイント差)。

一方、「110万円より少ない」は、中年層に比べて、60歳代以上が3.7ポイント上回っている。「わからない」はほぼ同率で、違いはみられない。(図表Ⅱ-39)

〈図表Ⅱ-39〉 利息計算2 「中年層調査」との比較：参考]

(単位：%)



(単位：%)

		N	110万円より多い	ちょうど110万円	110万円より少ない	その他	わからない
本調査	全 体	1,696	43.6	23.7	20.7	4.1	5.9
	60～64歳	323	43.3	25.7	22.9	4.0	2.5
	65～69歳	348	48.9	19.5	23.3	3.7	4.6
	70～74歳	417	42.9	23.3	21.1	5.3	4.3
	75～79歳	315	41.0	25.4	18.1	4.4	8.9
	80～84歳	178	43.8	25.3	14.6	3.4	10.1
	85～89歳	90	38.9	26.7	23.3	1.1	8.9
	90歳以上	25	36.0	20.0	16.0	4.0	16.0
中年層調査	全 体	904	55.4	23.1	17.0	0.4	4.0
	40～44歳	252	58.3	25.0	15.5	-	1.2
	45～49歳	242	48.8	24.4	19.0	1.2	6.6
	50～54歳	206	54.9	24.3	14.1	0.5	6.3
	55～59歳	204	60.3	18.1	19.6	-	2.0

(3) 金融・保険に関する知識量

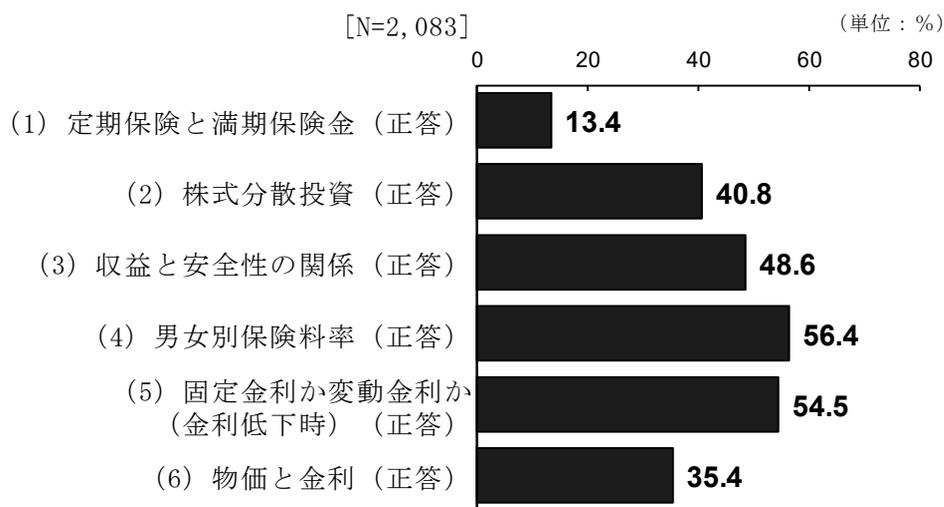
Q19 ここにあげられている保険や金融に関する説明は正しいと思いますか。それとも間違っていると思いますか。

- | | |
|---|-------------|
| | 1 正しいと思う |
| (1) 定期保険は満期時に満期保険金を受け取れる | 2 間違っていると思う |
| (2) 一般的に、多くの会社の株式を同時に保有するよりも
1社の株式だけを保有する方が投資収益は安定する | 3 わからない |
| (3) 収益率が高い金融資産は、安全性が低い傾向にある | |
| (4) 生命保険の保険料は、同じ年齢で比較すると、男女間で同じである | |
| (5) お金を預ける場合、金利が下がり続けているときは固定金利の商品が望ましい | |
| (6) 物価上昇率が高い時期は金利が高くなる | |

保険や金融に関する説明の正答率は、「男女別保険料率（同年齢で同じは<誤答>）」56.4%、「固定金利か変動金利か（金利低下時は固定金利の商品が望ましいは<正答>）」54.5%が5割台となっている。次いで、「収益と安全性の関係（収益率が高ければ安全性は低いは<正答>）」48.6%、「株式分散投資（1社保有の方が収益は安定するは<誤答>）」40.8%、「物価と金利（物価上昇率が高い時期は金利も高いは<正答>）」35.4%が続いている。

最も低いのは「定期保険と満期保険金（満期時に満期保険金を受け取れるは<誤答>）」13.4%で、1割超にとどまっている。（図表Ⅱ-40）

〈図表Ⅱ-40〉 金融・保険に関する知識量 【正答率】



性別にみると、「男女別保険料率（同年齢で同じは<誤答>）」は、特に差がみられないものの、他の5つの正答については、いずれも女性より男性で高くなっている。

年齢別にみると、「男女別保険料率（同年齢で同じは<誤答>）」は60歳代で高くなっており、高年齢層ほど概ね低くなっている傾向がみられる。

「株式分散投資（1社保有の方が収益は安定するは<誤答>）」も60～64歳で55.0%と高く、高年齢層ほど低くなっている。

「収益と安全性の関係（収益率が高ければ安全性は低いは<正答>）」「物価と金利（物価上昇率が高い時期は金利も高い<正答>）」は、60～64歳で高くなっている。

「固定金利か変動金利か（金利低下時は固定金利の商品が望ましいは<正答>）」と、正答率が最も低い「定期保険と満期保険金（満期時に満期保険金を受け取れるは<誤答>）」は、60歳代で高くなっている。（図表Ⅱ-41）

〈図表Ⅱ-41〉 金融・保険に関する知識量〔性・年齢別〕 【正答率】

（単位：％）

			(1) （満定期 正答） （定期保 險金と 保 險 金）	(2) （株 式分 散投 資 正 答）	(3) （の収 益と 正 答） （安全 性）	(4) （男 女別 正 答） （保 險 料 率）	(5) （か固 定金 正 答） （利 利 低 下 時 ） （変 動 金 利）	(6) （物 価と 正 答） （金 利）
		N						
全 体		2,083	13.4	40.8	48.6	56.4	54.5	35.4
性 別	男 性	964	①6.4	⑤0.2	⑤7.8	57.8	⑥1.0	④5.3
	女 性	1,119	▲10.9	▲32.6	▲40.7	55.1	▲48.9	▲26.8
本 人 年 齢 別	60～64歳	353	②0.1	⑤5.0	⑤4.7	⑦0.5	⑥0.6	④2.2
	65～69歳	406	①8.0	④7.0	52.5	⑦0.4	⑤9.9	39.2
	70～74歳	497	12.7	④5.3	50.7	59.0	56.5	36.6
	75～79歳	407	▲8.8	▲31.9	45.5	▲51.1	▲49.4	▲31.0
	80～84歳	242	9.9	▲26.9	▲40.5	▲33.5	48.8	▲26.9
	85～89歳	132	9.8	▲25.8	40.9	▲35.6	▲43.9	29.5
	90歳以上	46	-	▲21.7	37.0	▲21.7	43.5	37.0

本人年収別にみると、正答率が最も低い「定期保険と満期保険金（満期時に満期保険金を受け取れるは<誤答>）」は、100～500万円未満層で高く、収入はない、100万円未満の各層で低くなっている。

他の5つの正答についても、100～1,000万円未満の各層で高く、収入はない、100万円未満の層で低くなっているという傾向がみられる。〈図表Ⅱ－42〉

〈図表Ⅱ－42〉 金融・保険に関する知識量 [本人年収別] 【正答率】

(単位：%)

			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
		N	(正答) 満期保険金と 定期保険と	(正答) 株式分散投資	(正答) の収益と安全性	(正答) 男女別保険料率	(正答) か固定金利低下時 変動金利	(正答) 物価と金利
全 体		2,083	13.4	40.8	48.6	56.4	54.5	35.4
本人 年 収 別	収入はない	292	▲8.9	▲27.4	▲34.2	▲50.3	▲42.1	▲25.3
	100万円未満	435	▲10.3	▲30.6	▲41.8	52.6	▲47.4	▲28.3
	100～500万円未満	1,072	⑮15.0	⑮45.2	⑮53.1	⑮59.3	⑮59.1	⑮37.8
	500～1,000万円未満	135	18.5	⑮70.4	⑮68.1	⑮66.7	⑮77.0	⑮57.0
	1,000～2,000万円未満	25	24.0	⑮76.0	⑮80.0	68.0	72.0	52.0
	2,000万円以上	13	7.7	46.2	61.5	69.2	69.2	⑮69.2

世帯保有金融資産別にみると、正答率が最も低い「定期保険と満期保険金（満期時に満期保険金を受け取れるは<誤答>）」は、5,000万円～1億円未満層、1,000～2,000万円未満層で高く、100万円未満層で低くなっている。

「株式分散投資（1社保有の方が収益は安定するは<誤答>）」「収益と安全性の関係（収益率が高ければ安全性は低いは<正答>）」「男女別保険料率（同年齢で同じは<誤答>）」「固定金利か変動金利か（金利低下時は固定金利の商品が望ましいは<正答>）」は、いずれも高資産層ほど高くなっている。

「物価と金利（物価上昇率が高い時期は金利も高いは<正答>）」は、1,000万円以上の各層で、高くなっている。（図表Ⅱ-43）

〈図表Ⅱ-43〉 金融・保険に関する知識量〔世帯保有金融資産別〕 【正答率】

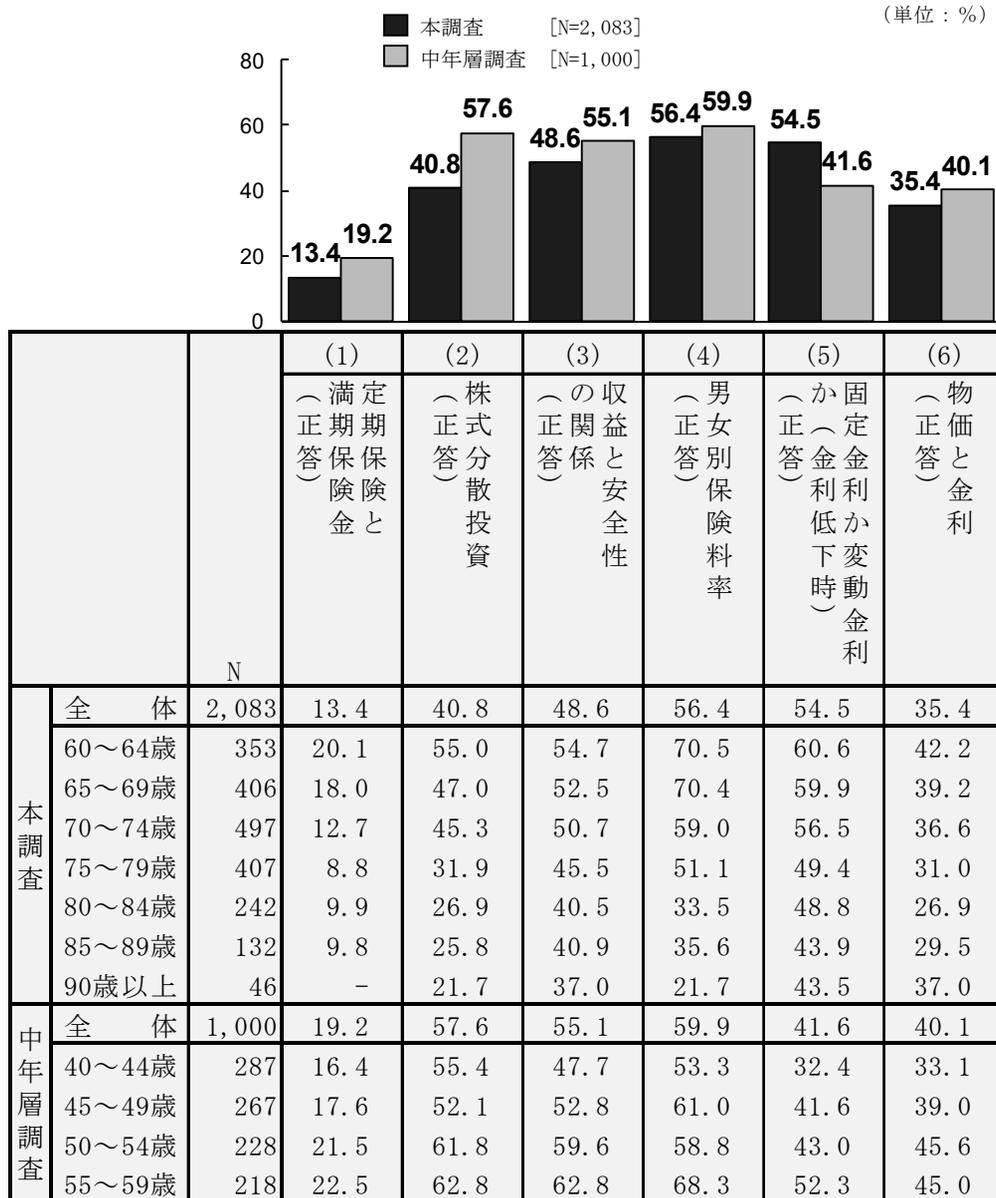
（単位：％）

			(1) （満定期 正答） （正答） 保険金と	(2) （株式分 正答） （正答） 散投資	(3) （の収益 正答） （正答） と安全 性	(4) （男女別 正答） （正答） 保険料 率	(5) （か固定 正答） （正答） 金利か 低下時 変動金 利	(6) （物価と 正答） （正答） 金利
		N						
全 体		2,083	13.4	40.8	48.6	56.4	54.5	35.4
金融 資産 別	100万円未満	303	▲9.2	▲29.4	▲37.3	▲47.2	▲38.9	30.7
	100～1,000万円未満	527	12.3	▲36.8	51.0	⑥1.9	⑤8.6	35.3
	1,000～2,000万円未満	273	④8.3	⑤0.5	⑤7.5	⑥4.5	⑥1.5	④4.0
	2,000～5,000万円未満	302	13.6	⑥0.9	⑥6.6	⑥7.2	⑥9.5	④6.7
	5,000万円～1億円未満	119	②1.0	⑥8.1	⑦0.6	⑥9.7	⑦9.8	④7.9
	1億円以上	23	26.1	⑧2.6	⑧7.0	⑧7.0	73.9	⑥5.2

調査方法が異なるため、単純に比較できないが、40～50歳代の中年層調査と比べると、「固定金利か変動金利か（金利低下時は固定金利の商品が望ましいは<正答>）」は、中年層の41.6%に比べて60歳代以上が大きく上回っている（12.9ポイント差）。

他の5つの正答については、いずれも中年層の方が上回っており、最も開きが大きいのは「株式分散投資（1社保有の方が収益は安定するは<誤答>）」の16.8ポイント差となっている。（図表Ⅱ-44）

〈図表Ⅱ-44〉 金融・保険に関する知識量 「[中年層調査]との比較：参考」 【正答率】



前述の保険や金融に関する説明の正答率の回答結果（正答数）から、以下のように「金融・保険知識量」を設けた。

Q19 ここにあげられている保険や金融に関する説明は正しいと思いますか。それとも間違っていると思いますか。

	1 正しいと思う
(1) 定期保険は満期時に満期保険金を受け取れる	2 間違っていると思う
(2) 一般的に、多くの会社の株式を同時に保有するよりも 1社の株式だけを保有する方が投資収益は安定する	3 わからない
(3) 収益率が高い金融資産は、安全性が低い傾向にある	
(4) 生命保険の保険料は、同じ年齢で比較すると、男女間で同じである	
(5) お金を預ける場合、金利が下がり続けているときは固定金利の商品が望ましい	
(6) 物価上昇率が高い時期は金利が高くなる	

【金融・保険知識量】
 ※保険や金融に関する説明の正答率の回答結果から、正答数ごとに以下の区分を行う

1 リテラシー高…正答数が5～6
2 リテラシー中…正答数が2～4
3 リテラシー低…正答数が0～1
4 無回答あり…上記に当てはまらない回答

その結果、「リテラシー中」が49.4%と最も多く、次いで「リテラシー低」が29.5%、「リテラシー高」が15.9%となっている。〈図表Ⅱ－45〉

〈図表Ⅱ－45〉 金融・保険に関する知識量 【金融・保険知識量】

(単位：%)



性別にみると、「リテラシー高」は男性が女性を大きく上回っている。逆に、「リテラシー低」は女性が男性を大きく上回っている。

年齢別にみると、「リテラシー高」は60～64歳で24.4%と最も高く、概ね高年齢層ほど低くなっている傾向がみられる。逆に「リテラシー低」は高年齢層ほど高く、80歳以上では4割を超えている。〈図表Ⅱ-46〉

〈図表Ⅱ-46〉 金融・保険に関する知識量〔性・年齢別〕 【金融・保険知識量】

(単位：%)

		N	リ テ ラ シ ー 高	リ テ ラ シ ー 中	リ テ ラ シ ー 低	無 回 答 あ り
全 体		2,083	15.9	49.4	29.5	5.1
性 別	男 性	964	②2.8	49.9	▲24.1	▲3.2
	女 性	1,119	▲10.0	49.1	③4.2	⑥6.7
本 人 年 齢 別	60～64歳	353	④24.4	52.7	▲18.4	4.5
	65～69歳	406	②1.2	52.7	▲22.7	3.4
	70～74歳	497	17.3	50.9	26.8	5.0
	75～79歳	407	▲10.3	48.2	③5.4	6.1
	80～84歳	242	▲6.2	47.1	④2.1	4.5
	85～89歳	132	▲9.8	▲38.6	④3.9	7.6
	90歳以上	46	8.7	▲34.8	④5.7	10.9

本人年収別にみると、「リテラシー高」は高収入層ほど高くなる傾向がみられ、収入はない、100万円未満の各層では低くなっている。一方、「リテラシー低」は低収入層ほど高くなっている。(図表Ⅱ-47)

〈図表Ⅱ-47〉 金融・保険に関する知識量 [本人年収別] 【金融・保険知識量】

(単位：%)

		N	リテラシー高	リテラシー中	リテラシー低	無回答あり
全 体		2,083	15.9	49.4	29.5	5.1
本人 年 収 別	収 入 は な い	292	▲ 7.9	▲ 42.1	④ 44.2	5.8
	100 万 円 未 満	435	▲ 8.7	50.1	③ 36.8	4.4
	100 ～ 500 万 円 未 満	1,072	① 18.5	⑤ 52.1	▲ 25.1	4.4
	500 ～ 1,000 万 円 未 満	135	③ 34.8	51.1	▲ 10.4	3.7
	1,000 ～ 2,000 万 円 未 満	25	④ 40.0	48.0	12.0	-
	2,000 万 円 以 上	13	23.1	61.5	7.7	7.7

世帯保有金融資産別にみると、「リテラシー高」は高資産層ほど高くなっている。一方、「リテラシー低」は低資産層ほど高くなっている。

「リテラシー中」は、100万円未満層で低く、100～1,000万円未満、2,000～5,000万円未満、5,000万円～1億円未満の各層で高くなっている。(図表Ⅱ-48)

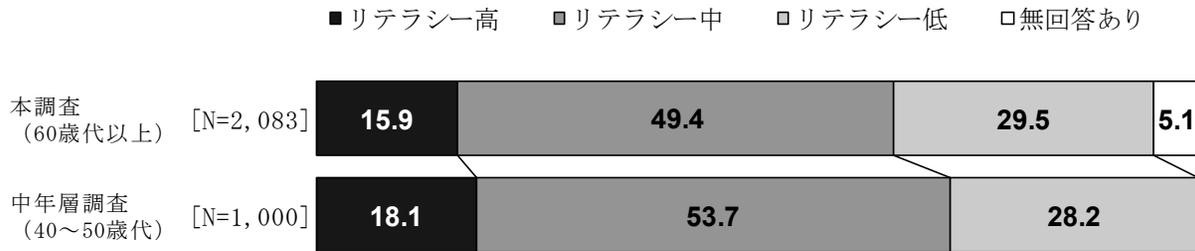
〈図表Ⅱ-48〉 金融・保険に関する知識量 [世帯保有金融資産別] 【金融・保険知識量】

(単位：%)

		N	リテラシー高	リテラシー中	リテラシー低	無回答あり
全 体		2,083	15.9	49.4	29.5	5.1
金 融 資 産 別	100 万 円 未 満	303	▲ 9.9	▲ 42.2	④ 44.9	3.0
	100 ～ 1,000 万 円 未 満	527	14.8	⑤ 54.8	26.9	▲ 3.4
	1,000 ～ 2,000 万 円 未 満	273	② 21.2	53.8	▲ 21.2	3.7
	2,000 ～ 5,000 万 円 未 満	302	② 25.2	⑤ 59.3	▲ 13.2	▲ 2.3
	5,000 万 円 ～ 1 億 円 未 満	119	② 28.6	⑥ 60.5	▲ 8.4	2.5
	1 億 円 以 上	23	③ 39.1	60.9	-	-

調査方法が異なるため、単純に比較できないが、40～50歳代の中年層調査と比べると、「リテラシー高」と「リテラシー低」については、中年層と60歳代以上で大きな違いはみられない。一方、「リテラシー中」は中年層の53.7%に比べて、60歳代以上は49.4%と4.3ポイント下回っている。
 (図表Ⅱ-49)

〈図表Ⅱ-49〉 金融・保険に関する知識量 「[中年層調査]」との比較：参考 【金融・保険知識量】
 (単位：%)



(単位：%)

		N	リテラシー高	リテラシー中	リテラシー低
本調査	全体	2,083	15.9	49.4	29.5
	60～64歳	353	24.4	52.7	18.4
	65～69歳	406	21.2	52.7	22.7
	70～74歳	497	17.3	50.9	26.8
	75～79歳	407	10.3	48.2	35.4
	80～84歳	242	6.2	47.1	42.1
	85～89歳	132	9.8	38.6	43.9
	90歳以上	46	8.7	34.8	45.7
	中年層調査	全体	1,000	18.1	53.7
40～44歳		287	12.9	50.5	36.6
45～49歳		267	17.3	54.9	27.8
50～54歳		228	22.4	49.6	28.1
55～59歳		218	21.6	60.6	17.9

4. 特殊詐欺への対応

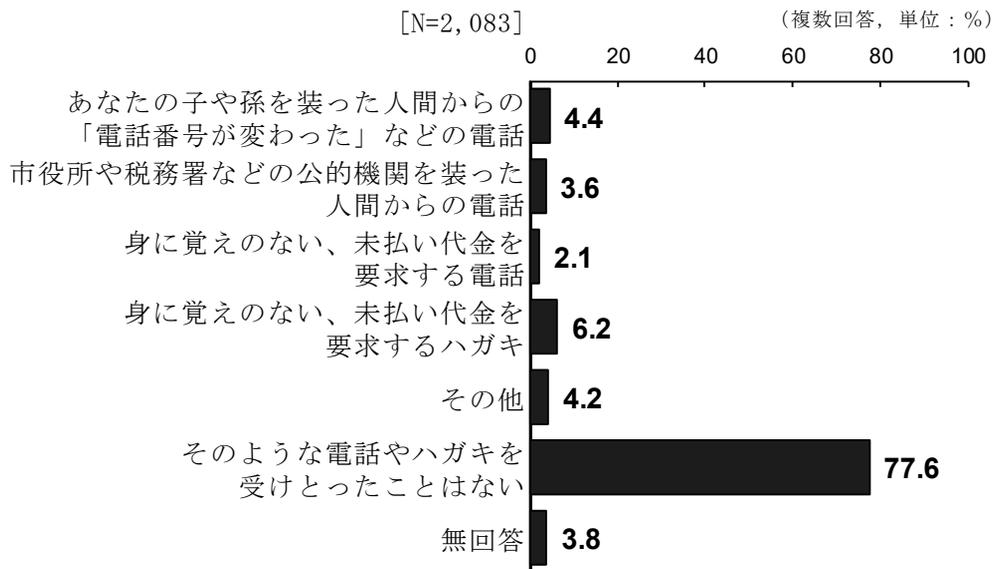
(1) 特殊詐欺の経験

- Q11 あなたは、過去1年間に、次のような詐欺の電話やハガキを受けとったことはありますか。この中からすべてお答えください。(〇はいくつでも)
- 1 あなたの子や孫を装った人間からの「電話番号が変わった」「鞆をなくした」などの電話
 - 2 市役所や税務署などの公的機関を装った人間からの「税金や医療費が還付される」などの電話
 - 3 身に覚えのない、未払い代金を要求する電話
 - 4 身に覚えのない、未払い代金を要求するハガキ
 - 5 その他
 - 6 そのような電話やハガキを受けとったことはない

特殊詐欺の経験としては、「そのような電話やハガキを受けとったことはない」が77.6%と、8割近くを占めている。

具体的な経験としては「身に覚えのない、未払い代金を要求するハガキ」が6.2%と最も多く、次いで「あなたの子や孫を装った人間からの「電話番号が変わった」などの電話」が4.4%、「市役所や税務署などの公的機関を装った人間からの電話」が3.6%、「身に覚えのない、未払い代金を要求する電話」が2.1%の順となっている。〈図表Ⅱ-50〉

〈図表Ⅱ-50〉 特殊詐欺の経験



性別にみると、「あなたの子や孫を装った人間からの「電話番号が変わった」などの電話」や「市役所や税務署などの公的機関を装った人間からの電話」、「身に覚えのない、未払い代金を要求するハガキ」は、男性よりも女性の方が高くなっている。一方、「そのような電話やハガキを受けとったことはない」は、男性が女性を上回っている。

年齢別にみると、「身に覚えのない、未払い代金を要求するハガキ」は60～64歳で、「あなたの子や孫を装った人間からの「電話番号が変わった」などの電話」は80歳代の層で、「市役所や税務署などの公的機関を装った人間からの電話」は75～79歳で、それぞれ高くなっている。

また、「そのような電話やハガキを受けとったことはない」は65～69歳で高くなっている。〈図表Ⅱ－51〉

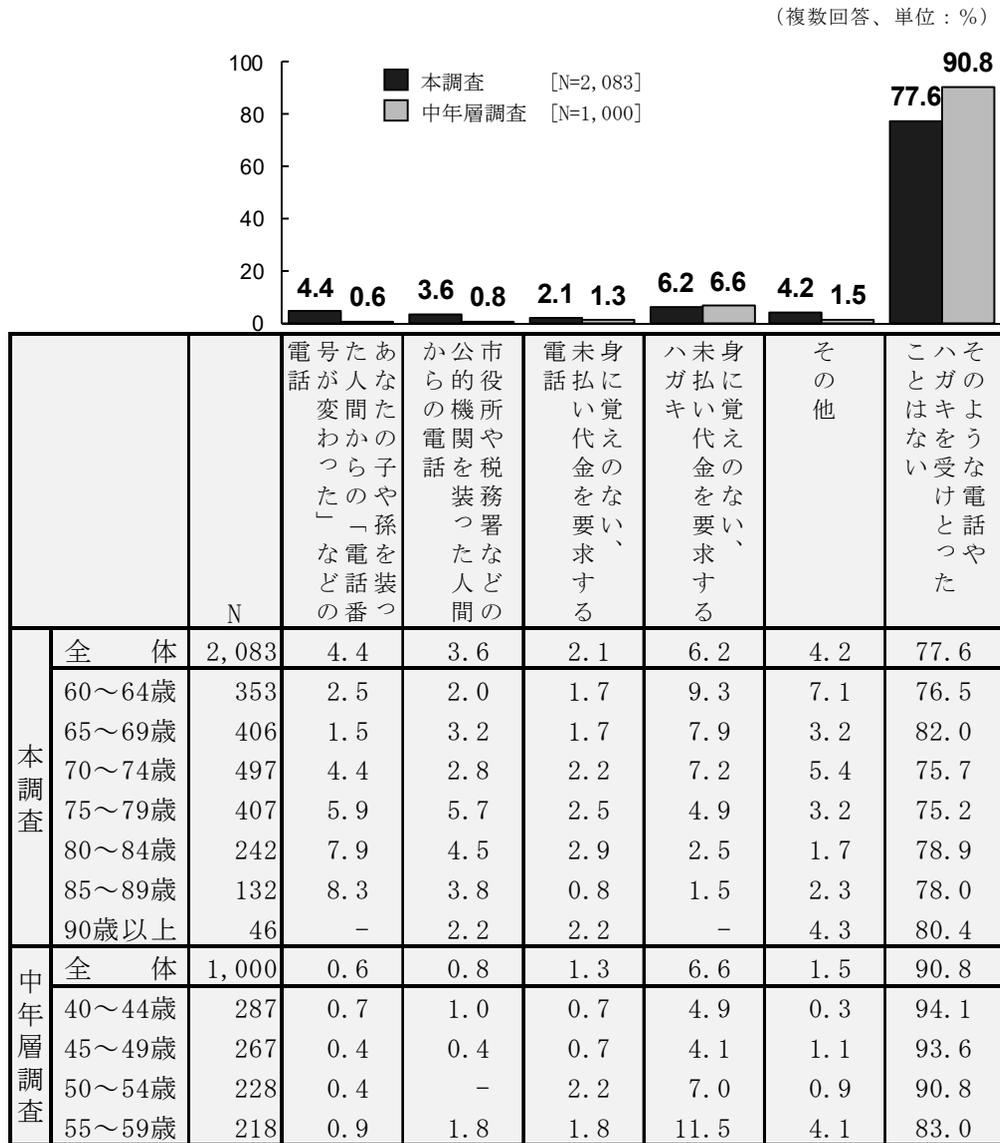
〈図表Ⅱ－51〉 特殊詐欺の経験〔性・年齢別〕

(複数回答、単位：%)

		N	電話があなた の間に「あなた の子や孫を装 った人間からの 電話番号が変わ った」などの電 話	公的機関や税 務署などの 市役所や税務 署などの公的 機関を装った 人間からの電 話	身に覚えのない 未払い代金を 要求する電 話	身に覚えのない 未払い代金を 要求するハ ガキ	その他	そのほかのよ うな電話や ハガキを受け とった	無回答
全 体		2,083	4.4	3.6	2.1	6.2	4.2	77.6	3.8
性別	男 性	964	▲ 3.3	▲ 2.6	2.2	▲ 4.7	3.3	82.0	3.3
	女 性	1,119	5.3	4.4	2.0	7.5	4.9	▲ 73.8	4.3
本人 年齢別	60～64歳	353	2.5	2.0	1.7	9.3	7.1	76.5	2.5
	65～69歳	406	▲ 1.5	3.2	1.7	7.9	3.2	82.0	▲ 2.0
	70～74歳	497	4.4	2.8	2.2	7.2	5.4	75.7	3.6
	75～79歳	407	5.9	5.7	2.5	4.9	3.2	75.2	5.2
	80～84歳	242	7.9	4.5	2.9	▲ 2.5	▲ 1.7	78.9	3.7
	85～89歳	132	8.3	3.8	0.8	▲ 1.5	2.3	78.0	7.6
	90歳以上	46	-	2.2	2.2	-	4.3	80.4	10.9

調査方法が異なるため、単純に比較できないが、40～50歳代の中年層調査と比べると、「そのような電話やハガキを受けとったことはない」は中年層の90.8%に比べて、60歳代以上は13.2ポイント下回っている。具体的な経験として、中年層より60歳代以上が上回っているのは、「あなたの子や孫を装った人間からの「電話番号が変わった」などの電話」「市役所や税務署などの公的機関を装った人間からの電話」となっている。〈図表Ⅱ-52〉

〈図表Ⅱ-52〉 特殊詐欺の経験 「[中年層調査]との比較：参考」



(2) 電話がかかった時の対応

前問で、詐欺の電話を受け取ったことがあるという人に、その時の対応を以下のように尋ねた。

Q11SQ (Q11で1~3のいずれかに答えた方へ) その電話がかかってきた時、どういう対応をしましたか。この中から1つお答えください。

- 1 電話で相手と話している時に詐欺だと気がついた
- 2 電話で相手と話している時は詐欺だと気がつかなかったが、被害には遭わなかった
- 3 詐欺であることを最後まで気がつかずに被害に遭ってしまった
- 4 その他

詐欺の電話への対応としては、「電話で相手と話している時に詐欺だと気がついた」が75.9%と最も多く、次いで「電話で相手と話している時は詐欺だと気がつかなかったが、被害には遭わなかった」が14.1%で、「詐欺であることを最後まで気がつかずに被害に遭ってしまった」は0.5%となっている。(図表Ⅱ-53)

〈図表Ⅱ-53〉 電話がかかった時の対応

(単位：%)



性別にみると、特に差はみられない。

年齢別にみても、特に差はみられない。(図表Ⅱ-54)

〈図表Ⅱ-54〉 電話がかかった時の対応 [性・年齢別]

(単位：%)

		N	電話で相手と話している時に詐欺だと気がついた	詐欺だと気がつかなかったが、被害には遭わなかった	詐欺であることを最後まで気がつかずに被害に遭ってしまった	その他	無回答
全 体		191	75.9	14.1	0.5	3.7	5.8
性別	男 性	72	73.6	11.1	1.4	5.6	8.3
	女 性	119	77.3	16.0	-	2.5	4.2
本人年齢別	60~64歳	21	▲57.1	19.0	-	9.5	14.3
	65~69歳	22	81.8	9.1	-	-	9.1
	70~74歳	43	79.1	11.6	-	2.3	7.0
	75~79歳	55	78.2	14.5	1.8	1.8	3.6
	80~84歳	33	75.8	12.1	-	9.1	3.0
	85~89歳	15	73.3	26.7	-	-	-
	90歳以上	2	100.0	-	-	-	-

金融・保険知識量別にみると、「電話で相手と話している時に詐欺だと気がついた」は、リテラシー中で、低くなっている。(図表Ⅱ-55)

〈図表Ⅱ-55〉 電話がかかった時の対応 [金融・保険知識量別]

(単位：%)

		N	いた電話に詐欺だと話気がついて	わかたが、被害にはな	にま詐欺で気がつくまかつたに被害	その他	無回答
全 体		191	75.9	14.1	0.5	3.7	5.8
金融・保険知識量別	リテラシー高	21	95.2	-	-	-	4.8
	リテラシー中	111	▲68.5	18.0	-	6.3	7.2
	リテラシー低	50	84.0	12.0	2.0	-	2.0

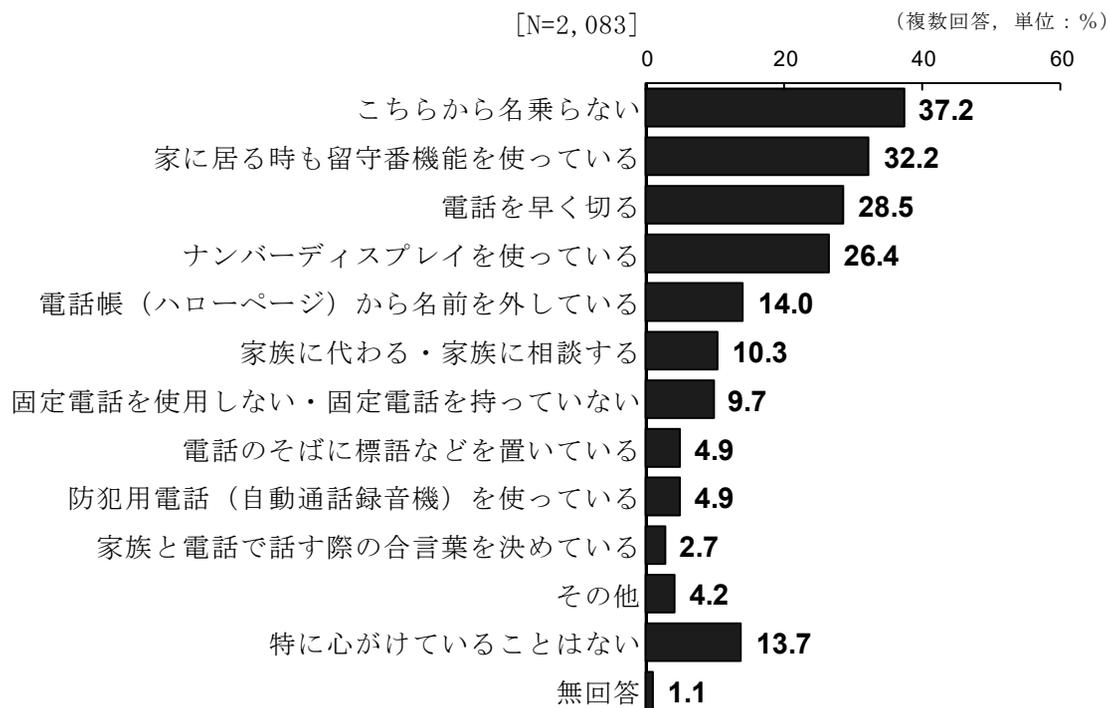
(3) 特殊詐欺被害を防ぐための行動

- Q12 あなたは現在、振り込み詐欺や還付金等詐欺などの特殊詐欺の被害を防ぐために行っていることはありますか。この中からすべてお答えください。(〇はいくつでも)
- 1 電話のそばに標語などを置いている
 - 2 家族と電話で話す際の合言葉を決めている
 - 3 電話帳（ハローページ）から名前を外している
 - 4 ナンバーディスプレイを使っている
 - 5 家に居る時も留守番機能を使っている
 - 6 防犯用電話（自動通話録音機）を使っている
 - 7 固定電話を使用しない・固定電話を持っていない
 - 8 こちらから名乗らない
 - 9 電話を早く切る
 - 10 家族に代わる・家族に相談する
 - 11 その他
 - 12 特に心がけていることはない

特殊詐欺の被害を防ぐための行動としては、「こちらから名乗らない」が 37.2%と最も多く、次いで、「家に居る時も留守番機能を使っている」(32.2%)、「電話を早く切る」(28.5%)、「ナンバーディスプレイを使っている」(26.4%) までが、2～3 割台で続いている。

一方、「特に心がけていることはない」は 13.7%となっている。〈図表Ⅱ－56〉

〈図表Ⅱ－56〉 特殊詐欺被害を防ぐための行動



性別にみると、「特に心がけていることはない」は、女性よりも男性で高くなっている。逆に、「こちらから名乗らない」「電話を早く切る」「家族に代わる・家族に相談する」は、女性が男性を上回っている。

年齢別にみると、「こちらから名乗らない」は60～64歳で高く、85歳以上層で低くなっている。また、「ナンバーディスプレイを使っている」「固定電話を使用しない・固定電話を持っていない」は、おおむね高齢層ほど低くなっている。「電話帳（ハローページ）から名前を外している」も、60～64歳で高く、80～84歳、90歳以上で低くなっている。

「電話を早く切る」は75～79歳、85～89歳で高く、65～69歳、70～74歳で低くなっている。

「家族に代わる・家族に相談する」は、概ね高齢層ほど高くなっている。

「特に心がけていることはない」は、85～89歳で高くなっている。〈図表Ⅱ-57〉

〈図表Ⅱ-57〉 特殊詐欺被害を防ぐための行動〔性・年齢別〕

(複数回答、単位：%)

		N	こちらから名乗らない	家に居る時も留守番機能を使う	電話を早く切る	ナンバーディスプレイを使っている	電話帳（ハローページ）から名前を外している	家族に代わる・家族に相談する	固定電話を使用しない
全体		2,083	37.2	32.2	28.5	26.4	14.0	10.3	9.7
性別	男性	964	▲30.4	31.8	▲26.1	24.4	12.4	▲5.6	10.0
	女性	1,119	④3.1	32.4	③0.5	28.2	15.4	①4.3	9.5
本人年齢別	60～64歳	353	④1.9	③6.8	26.3	③4.6	①7.6	7.6	①2.7
	65～69歳	406	37.7	29.6	▲23.6	③4.7	16.0	8.6	①3.8
	70～74歳	497	38.6	③9.0	▲24.7	27.8	15.5	9.7	9.3
	75～79歳	407	38.3	32.4	③4.9	▲21.9	12.0	9.6	8.1
	80～84歳	242	34.3	▲23.1	33.5	▲15.7	▲9.5	12.4	▲5.8
	85～89歳	132	▲27.3	▲22.7	③7.1	▲11.4	11.4	①8.9	▲3.8
	90歳以上	46	▲15.2	▲17.4	19.6	15.2	▲2.2	①2.7	6.5
		N	電話を置くそばに標語など	防犯録音機（電話機）を使う	家族と電話を話す際に	その他	特に心がけている	無回答	
全体		2,083	4.9	4.9	2.7	4.2	13.7	1.1	
性別	男性	964	▲3.8	4.6	2.4	3.8	①8.6	1.2	
	女性	1,119	⑤.9	5.3	3.0	4.5	▲9.6	0.9	
本人年齢別	60～64歳	353	4.0	4.5	3.4	2.8	11.6	0.6	
	65～69歳	406	▲3.0	3.7	▲1.0	3.4	12.8	0.2	
	70～74歳	497	5.8	5.2	3.2	5.2	12.7	1.0	
	75～79歳	407	5.4	5.2	2.7	3.9	13.0	0.5	
	80～84歳	242	6.2	5.8	3.3	3.7	16.1	1.2	
	85～89歳	132	5.3	6.1	4.5	3.8	②2.7	③3.8	
	90歳以上	46	8.7	6.5	-	①5.2	17.4	⑧8.7	

リスク意識別にみると、「こちらから名乗らない」はリスク積極度中の層で高く、リスク積極度高の層で低くなっている。リスク積極度中の層では、「家に居る時も留守番機能を使っている」「電話帳（ハローページ）から名前を外している」も高くなっている。〈図表Ⅱ－58〉

〈図表Ⅱ－58〉 特殊詐欺被害を防ぐための行動 [リスク意識別]

(複数回答、単位：%)

		N	こちらから名乗らない	家に居る時も留守番機能を使っている	電話を早く切る	インターネットを使ってデイスプレ	電話帳（ハローページ）から名前を外している	家族に代わる相談する	固定電話を使用しない
全 体		2,083	37.2	32.2	28.5	26.4	14.0	10.3	9.7
リスク意識別	リスク積極度低	125	37.6	35.2	36.0	23.2	13.6	8.0	9.6
	リスク積極度中	1,450	39.4	33.9	29.2	27.2	15.2	10.8	9.4
	リスク積極度高	391	▲32.7	29.9	25.1	27.9	12.8	10.0	10.5
		N	電話の置きそばに標語など	防犯用電話（自動通話録音機）を使っている	家族と電話で話さず合言葉を決めている	その他	特には心がけている	無回答	
全 体		2,083	4.9	4.9	2.7	4.2	13.7	1.1	
リスク意識別	リスク積極度低	125	4.8	6.4	2.4	4.8	15.2	0.8	
	リスク積極度中	1,450	5.4	5.1	2.5	4.3	▲12.1	▲0.7	
	リスク積極度高	391	3.6	4.3	4.1	3.1	16.6	0.8	

金融・保険知識量別にみると、「ナンバーディスプレイを使っている」はリテラシー高の層で高く、リテラシー低の層で低くなっている。

「こちらから名乗らない」「家に居る時も留守番機能を使っている」は、リテラシー中の層で高く、リテラシー低の層で低くなっている。「固定電話を使用しない・固定電話を持っていない」もリテラシー中の層で高くなっている。

「特に心がけていることはない」は、リテラシー低の層で高くなっている。(図表Ⅱ-59)

〈図表Ⅱ-59〉 特殊詐欺被害を防ぐための行動 [金融・保険知識量別]

(複数回答、単位：%)

		N	こちらから名乗らない	家に居る時も留守番機能を使っている	電話を早く切る	ナンバーディスプレイを使っている	デジタル口座(ハローペイ)から名前を外している	家族に代わって相談する	固定電話を持っていない
全 体		2,083	37.2	32.2	28.5	26.4	14.0	10.3	9.7
金融・保険 知識量別	リテラシー高	332	37.0	34.6	▲20.8	③6.4	16.9	7.5	9.0
	リテラシー中	1,030	④1.2	③5.1	30.3	28.2	15.1	10.7	①1.1
	リテラシー低	615	▲31.1	▲25.7	29.6	▲18.7	▲10.9	11.4	7.8
		N	電話の置きそばに標語など	防犯録音機(電話を自動通話する)	家族と電話で話さない	その他	特に心がけている	無回答	
全 体		2,083	4.9	4.9	2.7	4.2	13.7	1.1	
金融・保険 知識量別	リテラシー高	332	3.9	5.1	3.0	5.4	15.4	0.6	
	リテラシー中	1,030	5.5	5.7	2.5	4.0	▲10.4	▲0.3	
	リテラシー低	615	4.7	3.9	3.3	4.4	①9.2	1.3	

調査方法が異なるため、単純に比較できないが、40～50歳代の中年層調査と比べると、多くの行動で60歳代以上は中年層を上回っている。特に開きの大きいのは、「電話を早く切る」(18.7ポイント差)、「家に居る時も留守番機能を使っている」(12.7ポイント差)となっている。

両者の開きが比較的小さいのは、「家族と電話で話す際の合言葉を決めている」「防犯用電話(自動通話録音機)を使っている」「固定電話を使用しない・固定電話を持っていない」などとなっている。(図表Ⅱ-60)

〈図表Ⅱ-60〉 特殊詐欺被害を防ぐための行動 「[中年層調査]との比較:参考」

(複数回答、単位:%)

